續々群書類従

教育部 中山閲了

五（二）

順序八

翁問答 下

回仁13
1.619
2止

別段

[illegible]

かくりんも[illegible]

なかく云て士のうちにかくりんまう人あれども聊でぞ

しかれどもやうのあやまりはいつまでのままひとまでこ

申ところとまくおりしまりや　師乃日まれは貨

乃がくりんだり時気さそ風俗あしく人妻の心汚

濁りそ海りて手紙とよむどうりとかくりんと思ず

申まよひさる評判なり学問も心のきれとき〻

めすれおこまひとまよまれと半実となりなきまさ大

て　巧　書　候　別行　愛　は　貨　を　る　け　字

以下
別段

4

翁問答巻三（原本下巻之本）6

▲藤樹先生曰世俗

注意

フリガナハ凡テ取ル

但ーヲ引ケモノノミツケ置クこと

五十四頁

門　口仁13　1619　2止

門 口仁13 1619 2上

注意

フリガナハ凡テ取ル

但ー手引ケモノノミツ置ク

五十四頁

翁問答巻三（原本、下巻之本）

體充問曰世俗のとりざたさまに学問をたしなむは文弱にて出家などのしわざにて武士のこゝろざさぬ所なりがくもんを好る人はぬるくて武用の役に立がたしたゞして士のうちにがくもんを好る人あれば却てしほれぬやうのあやまりはいづれのまよひにて候やらうてしまくおつしましますや　師の曰それは賢のがくもんだらけ時儀さそ風俗あしく衆妻の心得濁りそ海りて書物をよむばかりをがくもんと思ひ又よひろ評判なりそれ学問の心のけがれとさきよめあたれおこるひとよくいつれとかく實の文字ある大

門 ロ仁13 1.619 2上

注意

フリガナハ凡テ取ル

但ーヲ引ケモノノミツケ置クこと

五十四頁

[illegible]

新刊翁問答下巻之本

體充問曰世俗のさたをきくに学問を好み沈酔しひとへに出家などのごとくなりて士の志をすてゝがくもんずきする人はぬるくて武用の役に立がたしなどゝ云て士のうちにがくもんする人あれば卻てそしりはねるやうのおもむきはいづれの道のまよひよりおこりてさうろふことにておはしますや

師の曰それは賢人の学問だて時宜さぞ風俗あしく驕慢の心多く儒者ぶりをして書物をよむばかりを学問と思ひて人をあなどり評判なりされば学問は心のけがれとなるめずらしきおこなひとなると仮実と文字の[illegible]大

むかしよりもろこしによむべき書物おほければ、只聖人乃言行（げんかう）を手本（てほん）としてがくもんせしめ、万代（よ）乃をしへなりて学問の眞実をうしなはんことをうれいて、経の本にしるしてのこし、經のがくもんの道（みち）とさだめしるも古乃かしこき經のがくもんとよむひと、がくもんは聖門（せいもん）とさだむる也。志かる故、まこと心といふ其心（そのこゝろ）をよく行跡（ぎやうせき）をたゞしくする思案工夫（しあんくふう）なりけるを、学問のいたる人ハ經の本意（ほんい）をまなびして一文不通（いちもんふつう）なりとも、学問する人せその心をあきらかにする力となさむる思案工夫なれ、人をいう四書五經（きやう）をよみて文字をしりたるばかりにて、むかしよりも学問する人はかしこきがくのごとく心實（しんじつ）なる道をわきまへぬはまことのあやまりなるべし。

あきらかになるべし。こゝろさへくもりけがれてあればおこなひまでも悪しくなるとも、凡夫の界をはなれて畜生（ちくしやう）のごとくにて、此ことわりを正真（しやうしん）のがくもんにこゝろざしある人ハ、まことの人よおしされば心ちと気（き）べし。学問をせぬものともそうる人ハむかしよりのハ大畜生（おほちくしやう）のごとき悪人なりさ、ともハらだし必ずしもちかづきがたしといへどもをよぶべし。文心さらく行儀（ぎやうぎ）もよろしき君子なりとがめたらんハ必まよえ、となくみえてよろしきとおもふべし。御ることそれハがくもんハせねども、とめたるまんの行迹（ぎやうせき）にあらざれど只がくもんの行儀の書物をよむといひ、がくもんとわきまへたち、あやまりやすき文学問をさだめてのあやまりさを、と

それは一しゆ通ある評判まちまちの中に此傳ひ也子
細き心あるうちに行儀正しく文武をかねそなへる
やうは思慮工夫ある武西土のがくもんと又かくので
よく心あるうちに行儀ただしく文武が稼ぎをつむ
人とはいはざるべしと稽古をするは其品々人のよき
まへにまなぶことなれど学問をさするいの志ならずして
あまりでるはねといはずして自慢させてまなぶがくもん
まうる人はかへつて武勇の役にたちがたくさるべきなど
いふはがくもんのりんいは我をそらまましのゆゑあそび
文盲なる法士の人の文藝あるとそれをつのをまうず文盲
なる恥をかくさんとの衒ぞするもの誠は分ともあきらひ
がくもん学ぶひとの大いさのがくりんに志しふかく流に文藝
ならひをおぼふと云とも武道のさまりにあるべき理なし
其の子細は源義經公弁慶君臣ともに文藝拙の
時分の法士はまさしくれもあまりひねもすとも稽古を一度もお
くれをとる事なく末代にいたるまで太うの書を武
篇のさかしみにも義經公弁慶と申は文なつひなら
もせり文盲よれ自滿の心がいにいれせめて義經公弁慶
などの兄のきは程なりともおよびまかれて生きに参
あるべしそれをまうで一偏の流にみまそかくは紀士と
まで云がたし是んあつう法をものがかあしれば武篇ふかく
思ふとちまさもちる國出人をとゆる山が路野よささ

はらふき含などハ文盲無一のものども也然るハ若輩ども
ニ子よりも武篇者とそおりかんや然るの事とへあまり
あるしくきこえぬまでも今時のまつりひやうし大
うちの事なべて心盲の様ふりさめぐさ故よ数
とをげましてよびさ海をありまへどもも海ぞろでと
くいるをうるもとの武篇よ花いまう然るの武篇ある
しこまでとその音偽さのひがことあるひハ株をま
すりの愚癡よりおこる海よひ世文義芸ある人ハ蒙経云舞
芸文などの乃ことく武篇よ花をあるも文腹病なるもある
互し文盲なる人ハ腹病なるをもふべしまさに首まげ
なるをもあるまあん只勇なるのの武篇よ花と点にし

むかし今の分あしをよく考て学問ハ武篇のさまたげ
となるとい並るきこと心得と思ふまへしまへとも
論ずるあるごとく正直のかくりん浅きよりあそさせり
ぬまでも仁義の勇あるべからずふかく必ず恥なんよくある
なりそれも制道を学問の志あるとふかく吟味あ
るべきこと也中庸曰人一能之己百之人十能之己
千之果能此道矣雖愚必明雖柔必強この聖
乃言ハ篤く天地の神にも志し明徳とあきらかにす
もろ工夫をさげましてあおこなへば必さとりをひら
きも海れつき愚癡にて迷ひ物ごとりのをかんきの
短気あさへ子も進まれつきぬるもしくすすめさする人

もかなはず心仁義の勇あることなくて武篤よ
きしの義なり論語曰仁者必有勇勇者不必有
仁とこれ聖賢のこゝろを傳道とよく治めて仁者
の信よりなりぬることく人欲ことくつきて天理流行しが
まれどもしき妖魔あるひは虎狼などにあひ
ても常の人は狗猫などをみておそるゝごとく心ふるへど
ろきおそるゝことすくなし是百万人の敵に
あひ剣の中にあるひは猛火のうちへとび入とも平
生の心にちかはずしてもちがふこと毛頭もおそ
るゝ心なく必す十万無雙の勇なげあり明徳あきらかなり
ことなれども生れつきて勇あるを勇者と云この勇

君をかとうり死をおそれず猛におびへかゝざるゝこと
ハ仁者の勇に似たれども人欲のまよひにくらき故に明
徳の道理を知らざれば不義無道のふるまひ畜生にお
ひとしくて天道の仁をうしなふものなり生れつき勇力
あるものも聖賢の傳学を治めて其勇を仁義の勇
となし生れつき勇なきものも文武の傳学を治
めて心は奥有志なる仁義の勇をあらはせ
よりと数をたしなまば是等の聖賢をよく修德し
て武備をたしなまんとなりにまた志しあるべし武
事せば兵法軍法軍礼武備のたしなみ諸家の能
德のあるて君子傳受の一家ありして聖人のさかさん

わふて陳なれどもさふしふそちうりのが傳へたと哉しるも儒学をよくする士のもざかりとおもといふをも海まよ無を下ま無実用なるとなれどもそちむかふ志あるべし修究日心を明らかにし力を修むる思案工夫ある人ハ一文不通なりても学問する人なりと被仰なれど論語よ海ども乃論語よあることよおふいても世情をしる理なるかひたる。

云ぞよりてや　師乃日それをも心得まう大じなり論語よ海ども論語よおこと云も聖人のあや也孔子をろんごをよみ海てもよ論語一部読終るともこそくくれ学乃言行なれども聖人の論語よ海ずれ於経よこをなり聖人より候ざりのうちまれつきまうる事也

ど宗門の偏あるかようつり事をも海ども忘汲の室まりるとよもかりがさしれども太児をもつ下はじてあるよ人とかくれさをまべき理をすれどもせるみ論語よのみ乃論語よまずあるくまんなる役よそれをとめしめんための假説也と心乃べし心をめりかねさゆしの恩案工夫ある人もの一文不通なりてもかがくりんもろ人也といふも学問のなさとあさころふしよせ乃りんを志るも哉もあ乃假説也としぼ実の格言也と識て宗聴乃汚れある心をもつて心をめりかねしみ力をあさはる工夫をなして聖学也と心乃なんもき千万里のあやまり也心をもそのでおふし力をかきめ文武兼備よ

あやかざしあらんことをとひ書物をよみしばらくし儒門のせん覚によきてさがひ本心の端的を明弁して宗智乃あがれをあらひて工夫の海をこそひらく道し体究日株を守りとのさまざまふ書をにぎりすてや師乃云ふ程の事実を忘るほどに書きそのまゝ記なども里也同論あつかふおきは海しさおのひ人を株を海のかと寓言のたとへせむりし山が川当をもうちそい亡ゆる雨へ暮より兎ひとつわらへでいくの山がわれてさるおきりれ来のくぶまよれらをなほそて死しありて彼山がんこまをとりんておいふやうまさてと帝代不思儀なることもうまは来のくぶまて兎よりの遂摘みりと心あてられ

兎とらりて気らり我れよふ僕のおりくまふの手にふのりとふふゆきそて来のふれより出ろ兎をひろんと経同海よりめらしと寄れは山が川の海まひまで似ろうもと去取んふあやきまよわれく寓言して凡夫のまよひとわらひたぢしめらり統中これは似てる大きなる迷忠をも佐合よく富貴になりぬまでぞ我智恵才覚にてそがへれずしもおもひえたあはせおしく貧賤になりてハわがまざと八おもひずして親ととち人をとらめ天どうらむることをとの迷ひせをあはせてし富貴をまなれるを運命のまれつきとしてまちかられなほをまわまあると仕合おしく貧賤になりたるを運命のうまれつき

むかし教の昔よりも いかほど人代をとまたをも いかに
をやぶりて天道のおやまりからなるとも いかにしてもさ
藝あるとも藝をすべきも わるさみつけるよろしくころ
兄弟がほうと武篇のすてきずし只心の当げすが武
篇をもつぱら心ぞへども心をかけひて ちくきの事は藝あるも
のが武篇ともあれども藝が武篇をもとし あわれひ藝があさき
が武篇とをされども無藝の文盲が武篇をもとしあわれひ兄弟が
け かのきりの武篇をされども かのきが武篇をもとしとお
りひ兄弟の事いふるなる者が武篇をされども ところが武篇をもつてあ
とおりひてどのかさきを楽也 株のうさぎをとうとさ
あとまて知らやもとしとハりかれは誰もとおりて海よりて沢諸

さうい気残勇怯の理をまさにきまへ さきにいたりなるにより
ゆゑに源氏の歴々は海よりずべり也 これ者なる紀
すを寓言として弁へがたき紀をものいひとてまし わきまき
えそうり大唐の諸士にも無藝文盲なるもの百人
一人もまれなり さうるゆゑに太功をあらはし大将軍武
篇つよきさぶらひ兄弟藝能あり 日本の諸士は八幡
藝文盲なるもののおほし さりければ武篇つよきさむらひ
なきまで文学藝能ありまさ藝能して力をなし
人をも武篇のいひさてあきらかにより藝といひさそひし
推よる坊主が花書家なるぞでの主となりて武道
まそのうへよりあそびとゆきて手まし風俗かくのごとく

すら風俗となれなれふかくりしてかのこしのをすと志つくされぞ。文藝文章が弐篇とるし癖（くせ）をきまりたどりきくしべなりとも云べきや

伴充問曰　学問をよく記りの也志られどもお問く八いろざるをよく云人あり。しかもさてこえ多なやうよ存候そいぐ

師の曰　然ればまず世のがくもんとをきそ心がそ行儀（ぎやうぎ）むざせおかる人あるとをみてさやう代おやまりざるものぎらさとかせりそれ愚さとんで都の見けるをよみてし大よく記をのちれどとをこうしのちいあるがまうしあかくをいらさるまのせといふがごとし云ふの学問ある合抱（えかく）どよる火燃（ともび）の□く子れどもこうしとて八箇

よ至極（しごく）しますせの学問ハむかしと唐人のごとくなれどもかくもわざはひよなりその爰れがくもんとしてわしくあら人をみて正直乃がくもんとさうふきお家を食く大とえて合抱（えかくろ）を真ぬ大せのしびをきらるることお前むと此辭（ことば）譬まそよくくめ心（こころ）おるべし

伴充曰　学問の名をひろまそをやうまおきちがひ乃此存候細（さい）きいう小

師の曰　正直のがくりんハ私（こころ）をもて義理（ぎり）とまづちとしおれ満（まん）の心がこさやうよあしくあしと云ふのまおこととし親およく孝行（かう）とれくしまさ教よのん意（ちうさう）とい多し兄弟（きやうだい）のあいだをすき悌恵（けい）をきまもあ友（とも）だちのまじわりもよりあくそのをしく文典（てん）と身一の中（どう）としあとする

ねまおかくしてよくきり入れどもそれ義はなくなりゆけ
ましうちの説しますこと度あそびてどり入なれども真に
うちがてしまはれ学問や悟学のすゝまれども道
されたる人とおさへのまゝ名をさくせんとのこゝる満心
ともあこくして学問も大節をもんげはてはひくさき
ら一切小児衛詞章の義ぎよりとせとむつねにおかく正ろか
どんぞそ其徒おしくなまてり愚焚えより下のまゝ
つさよそる満の邪心なき人をあーて下の悪逆なるを
あしき或はさちがひ或き天狗になりる人みなる此慢心の
なさこむさそれその自満の邪心が魔境に畜生道へお
ちつる道をまじ也といへ毎めおそるべきことや戯とすせの

がくもんまで此満心とかたむ每にまじりくはへ手まつ
まんげされど覚えば驕慢にるる事あきらめしやまし
別行 伴先曰魔境へおち入とさいろやうなるをや
別行 滞の曰おろひを雅人のかくりんはゆゑり或は学問せざれ
どうも暗愚をは魔と来しねまぞし自満の心根かくくな
甲殺緊あつて我風になりぬ人をさも生ける悟としても
おのづからは天下にまさごとくこのなしせん人しゆう
さぬる満となりあて教あやうさ我懺あるとさるあり
しておしくだりひ書をそし思朋友をあざりて
学悌忠信の本道とさまたげ邪魔にわ通じ悪
魔と成いとおのらの我魔境よおちらうしたやうな

まろき利根聡頴ありげなる人は病まひおほし

体充曰、今世の学問をする人は世俗の人の交じはりをきらひ、しりぞき閑居などこのみ、心気やみなどのごとく引こもりなどしてもろ人のあるハ何ゆへぞや

師の曰、それがしたちも魔境におち入ぬるなり。儒の魔心おこさせしゆへに奸恠をこのみ、世俗人を捨て、あやのもちゆるも見識もちゆるもまことのあてがひも明故の手にもぎさも皆まけをなし、妄作絶世とゆんまうするによりゆく。ときをみるもたゞ見るも皆あのまゝになりぬる。ぞうりなる故に世俗人の交をいとひ、引こもり居るまじき事のひとしかるべし

体充問曰、世間の学問は書物をよみならひてそのわけのなりゆきをしへをよくきゝ、書物をよみ講釈を学ぶとばかりにて、よくつとめたるしるしなし

師の曰、太むかしは文字なき代なれば書物なかりけりて、只聖人の言行を手本として学問をつとめあそばされし。伏犠易書をはじめさまさまの文字出来てより後には、事物をよそのかたちを講明し、わが心のかゞみとして、かくのごとくになりたる也。それより書物おほくなりて、孔子の時ハ六経をまとめあそばされ、孔門の弟子へ文と行とをしへ給ふ四教也。文ハ六経の文也。行ハ性をまもる行のおこなひ也。忠信ハ心の根をまもちまもて誠の

を求め明德をあきらかにするを主意とす此段は本末備る經
乃二章別ありて傳を根本とし之を幹梢となし文は傳
よりての經なり六經乃文をそのまゝ主として議論し
かざりてしるさず根本幹梢の主意をよく法として明德
の實體をみずからの也聖人にましくて知におしへた
まふはさにかくのごとしまして末代聖賢のます故
さるの時は經とさしむる聖經賢傳をもつて議せば
知らくまのまひあたる心ますせにて學問をする者は必
ずいつるまで燈をもて暗室に揖を報るがごとし

仲尼曰上天子より下庶人にいたるまで皆學問をすべき
できるをぬこしけくは是より以て愚癡不肖の男女も識

師の曰

女はいふときみしたるのなることあるのちいくて
むかし聖人の御代にも閭巷とて數二十ある小
學とも學校ありて志學の者を行代変ず學師
道とありて耕作のひまに手習を議じ庭をおしゆる
よみし書を愚癡不肖のしづのおとこのめにいたるまで
手習のかんになくかんもるも文字をまなみする
ことになるされども心に手習のちをかでんして力
乃おこなひ四のちの德をおほえまで中ゝに今時の
俗儒のおよばぬところなり文字を目にみ道を伺ふ
なりざれども聖人の教のかんにてまくめんしてまるんは
乃德ともうると四まで以をまむとして志室の讀書や

心の會得なく只目まで文字を見覺ゆるばかりなる哉
き眼まで文字とよむといへども誠實の讀書にはあらず
況や我まゝにいまで手習をよむといへどもおしへざれども聖經賢
傳をやはらげ假名作してよみ易くしてある人は講釋をせず
の業をよく〳〵ゆるして我心のちからにあらずといひ乃
みとしまうまで儒學乃手習をよみならふ事とおもふべきはさ
つとくする手習の文なれども鄙の男女のめ讀書手習を
よみならひてよむまでは今時はやる儒學は文手習、
よみそこよまぬはなりがたかやうの類をよく〳〵儒徳あり
ざりし○仲尼云ることにしよりとまでいふ書手習さ
いかんなしかさそし皆よむまでなをねてまたそわ

師の曰教をあたへきなる心得そこなひなりよまでか
なをねといふ手習は十三經のことなりて三經のごとく
よみさとしごとくなるべき儒の書あるひは七書なども
あらかれ手習ハよみて易なし絵をつとよみねるは周
易なく心得ろしあざこともなりとぞふるし史書ハ古
今の事蹟を考へ福善禍淫の印証ともなるものなれバ
鑑のためによむものをめりと知べし○仲尼曰
十三經とはいかなるぞや　師の曰　孝經、論語、孟
子、周易、尚書、周礼、儀礼、詩經、礼記、左傳、穀梁傳、公羊
傳、爾雅　以上十三部を十三經とさだめおかり○仲尼曰
十三經とて年中すみぬると史の分まで皆まなび

はしおよびかくしかゞへは其のうちにて一二巻をまなびし大經のもんなりやとさき書をおりしましたや

別行 師の曰 昔来易経一部とおしひろめ其の十三経なれば易経とよりまなびはじめよと志れども易経を簡奥玄妙にして凡夫のおよび可きにあらずよつて孝経太学中庸と心よりのみよく海まなびねまでに大經乃ゆんありなとし三書とまなびて経をあるものそかともまなびてこそ孟子をまなぶべしそれ銘々おのの八十三経をまなびまするべし十三経をえらぶ海なびねまでかねしおきへて退屈して布ておしゑこゑんくとの也まこと三書の外八四こもの中よりへて

せずしかくぞまりて心の活潑々地の妙用かえって枯滞せざるぬまではおとすめせ出して三書をまなぶこともなき乃ちまだ事ののちにまなびと始めて志とかうしてひたすら心学と云ふ不作しておもひさだめ信をまもり行住坐臥の時に相ひそのまことをいとめいそのこゝろよりとおもひうちうくやうにして懈怠ずまずむかえをさしてそれをかくべしそのおそれとよやまきは生れつきの明晴習の濃淡によるべし

別行 件充曰 孝経大学中庸は八武兵の前にしくても流布候や

別行 師の曰 三経の中小孝経と説かん易行と説き勇強の説継ぐところ武士の武家の教也されどもまなびたきは

さまあまりせざるをさゐく勇を武篇とハなづけて学術なき臣にまでもいさましき乃あるをけなげとむかしん人までも盗と云ものにもかりそめに知やうときしもそれ迄もしたさまへらんまれなるにやむかんあんとをし武篇者なりとかしむ風俗あさましくなげかし曾子曰戦陣無勇非孝也この説苑乃まこと君恩をむくひ義理をきはむるが孝行の感通なり君のおんも親のおんもひとしき広大なる恩徳なれちうしんは孝子の門よりいづるとのあれども孝行あるものハ必ず戦陳におゐても武篇をたてゞげ武功をあらはすものなりしかれバ孝行者の節の事

ありそもそも戦陣におゐてぶげんのなげみなきハ不孝の実のまことにあらずといましめたまへり程子武学制に孝経を読つ迄させられたりしは悉くむくひ義理をさとらすしてハ武道をたつるものハ生れつきあらげなりとも真の勇にあらず都て味ふればまざわひをまねくものなり是によつて孝経をあまねくまなびて義理をしる本心をあきらかにせ血氣の勇を化して仁義の勇となすべき事もあるべしくべし武術ハ練して守りの鍛錬とのぞむべし

体充問曰衛霊公問陳於孔子孔子對曰俎豆之事則嘗聞之矣軍旅之事未之学也明日遂行と論語

よおりしまし人で孔子ハ軍法をもし志給しめされたにせ
ある人にて師の曰それを以乃行ふ陣さうりん
ゆそこなひたり何りしいひなかしら鉄帯軍をおこ
し民をとりちからすハ心根と時が大きにあり仁義の
心を根として順逆の時によかなひて用ゆるを仁義の
師として正しき軍法民篇あり私心欲んでなけ
て順逆の時もよそふそむかう民の篇ハ強暴暴逆
の師とひて道統あひきゝの親ありまゐらす不運
世をなりして残伐をこのみ強暴暴逆のいくさとせ
ましくせんかあふ添とされありめしくなく
人をま軍法とあし人をさまぬえ人は道と合ふ

まもなし候君子まき人の悪とも戚言をつめ
きまゑい学をいましめなんかとしてこそまとあれ
て禮をもしまなひたる軍法をきてはしこえ諸
なり史俎豆のことあ礼法あり礼法の大門なり
吉礼凶礼軍礼賓礼嘉礼これなり此うちの
軍礼を家ひち軍法とまをすよ礼法でまなびた
ものまよ時き軍法をよくまあめたんへい
まずして即自あり俎豆のことも軍旅のことをおそ
對して事の主まうよるなる仁を本とするの軍法はすなはち
なびきまれども来伐をうけゆくにつとめそなき
軍旅のことハ盗賊のまざるれどもいまだするびぬと

のたまはんより聖人は寛裕温柔にしてとほく迫切ならざる御なる故に概乎にまゝこそわきまへざるものなり其公この聖賢をよくしりて礼をもちひるをまなび邪心をひるがへし仁の徳とあきらかにしてのち軍法をとられて必定千聖心伝の軍法の秘奥を伝へ給へども国をしづむるふかくつれその

あけの日さし世をますます地の徳十分にあきらかならして天地とその徳をあはせ日月とその明をあはせ文武の孫武子をりたる人と聖人とは孔子をさきのやうより聖人にそへまし倦世し文武をしそなへたるすまことにあまねからざることなり　将継篇曰孔子は周の文王の…

世之師也又曰孔子其為之師堂々正々儀度人帝三王之風なり乃将あり玩味して孔子の神武軍法の秘術を考へみるべし

◎術究問曰繊の上まで軍法をならひきたる分にては勇猛のけいことを好まん勇士にたちかやまへしくはこざいく軍にあまた功者にまさるべきやあるまじきと存候

師の曰それをかろしむべきなり評判ましてわりくわり変通の機転なく法ありまづひとのまなびてもあるまじき人はあながちならず学びてきたへ給へども持ゐぬ時はなきが如くにてならべし主とへてもておほいとなるべし十人は五人

まずあてたなしひして文のよみかきり授らせざらん者なし。あやまは一人武芸勇にて一騎当千なりともあれどものごとく軍法をしらぬ悔によりてしく擒となりたるためざれば師道によくまなびて熟しきはめてあるかのごとくなれ十人に九人まで軍の法わりしまで老者とも小器にあらねどものなかひても益なきべしそ九人へとすて一人を説授とまる謀断者はまたかわらなかひても益なき人と一騎の人なり軍法をなしとくとしても本心の武略を通して暗に志ありし人ありましてそのよくまもんするとまなび用武の神妙をもつくしなお所ただ兒にかたざいするとしいふ猿のごとし

いくらも日本にても名将といはるるほどの人も軍法をまなびざるはなし。惣じての功者だちなりとも大軍をも用ひて才によりて海をもしく武略を見しく大敵強敵にあひて百戦百勝の功を立つるの中にもありぬるは元より大将の軍法とよくさだめ八国の敵に打勝ちて威をなされぬ名を揚ぐるがごとし軍法をしらずまして住合よくて敵に打勝とも威をとるは人あらずしてありこれ又運命のちからと敵のさせる功名なりかくのごとくなる人と見て何れも奇人とも云く軍法は志らずともしかしながらおりつる者の様とまりなるべし運命のちからにまかせけれども目け

もろこし暗将もそしも威勢をふるふはさきへども矢を
かまへて行までとぶりの手にてまきなれども射てのち
うちもて三町を四町もとび玉を込みて人と殺を
ものゝぐはふなれども少人と手とのちからして稽古を
も介ともしうちぬきて人とところもがごとしまさき歌なれ
させる事なき碁象棋の勝負まで唐へ志るべし下
ずよあひくきかちてぎりも一番んおはすなれども上手
まあひそもかんがてもくるゝがおとし太くも合戦
の勝負くのごとし太唐の名大将みなかぐ勝かならず
る紀はど枝おなれどもおほいく人ぞうり
きこゝとせるまで太公望張良韓信項羽諸葛孔明

なかしかみ人此繋みならくき時志の其世あしくはしきとき
ござまひといふ事の苦労あまる事うちならへます
かくりんめきれぞるまゝまそ深たびの功ありしかば
も時まあひものち深たびちあり里勝利とゆて来代
まで菅ともろ此数有紀名大将なりしるあし此矢
ねまで皆くのごとし日本まても源義経公まで幼名乃
と紀鞍馬まらく寺法まで学びありしろまるを
て深たびの功なれども木曽義まるは平家此一族
と度々のせんこう勝利をえば日本までの此数そ其
名大将也かくのごとくなる儒漢の好きをためしをも
よくく観じて誠の道理をあきらむべしまこと二

乃ちたとへあり大将はくすしなり敵は病なり士卒は薬味也作戦の法は薬方なり衆寡用間の戦略は望診の医術也奇正のてだて敵によりて変じて勝外は攻補の薬方をまはしめるにてかくのごとくおとしい軍法をまもらざる大将は医者をまとうしもしらぬものが療治をするがごとしおよそこのあるべし一隊の功にて備のそのやうなはせん手だてをこらしかちいさたる大将は薬方をこしならひあつめ病证の見立をおぼえごとくし軍法のかくりんなき大将は運命のさかひ流よくもたち紀歎だてらりよはひて勝利をもとめ

國とゆすふるなる世より紀ぶさるしかるんでかけなはずしくして病人よりやまひを摘とりて菜代のころよりその名だたるおほし太公望張良韓信項羽諸葛孔明義経などのごとくかくりんときさたる軍法の妙理をよくわきまへて百戦百勝の功をたてしはまた医学よくきはめて望診の妙術を進歩して百病を療治し起死回生の功をたてしもの扁鵲倉公李東垣朱丹溪などごときの名医のごとし軍法をまなびても変化の操縦なく武勇のみたる大将は医書をひろくまなびても変化の医術なくしてまづ療治をこゝろざす医者のおとしもしらずしてやる

今ハいにしへまで扁鵲など醫学して療治をよくしかざるをおもへバなづくところの療治の扁鵲のごとく起死回生のことしきおほき一人もあるまじく太公なとの事云ども義心のなくて武功よりすぐれおもくなん軍法すらなびざる大将のいくさとして太公望のごとく百戦百勝の功をたつるも一人もあるべからずまくらく銀盃をおほむとし

御究曰軍令たまつりくにて事まの敵をもしかちやらけんろ

師の曰合戦の勝負に法のうち才のうち力のうち運のうちとて四ツあれバ是剣あり陣と云是之武令一の明治の上也才とるハ武略がりて人数を行伍より法より陣ハ敵の情をよくさとりて兵のよくうごききれバ此下ニかくれて百戦百勝の功をたつ術の手だてちからとて云ハ人数ハ勢力のことなり運といふハ主将の運ハ天よりもつきたる運命の事なりあいてもむかひのきずあひき運の事ハ紀方々このせ大軍ハ合戦ハ法をすまくちから才をちからかから力を運もくつたらバ才法弁角あれど運のつよき紀かさね合戦のうちハ才法勢力のつよきさが運つよからぬまどもよ後運ハつまりの玉をとりてとも運のつよき紀まへかろぐくものせむりし大魔ハ蜀乃国と魏の玉とてんく代おもそふすなり蜀のくよハ後漢のまへまとく運令をもよもくりしかども諸葛孔明と云才徳

かのことさらくゝろみたる名大将あり魏の曹子は運命あつよくされど孔明に猶はくらべがたき大将なりしゆへなるによりて度々の智恵ありて蜀の国に勝利をえて天下に威勢をふるひしかども元来蜀の運よはき故孔明の天年つきて魏の大将仲達と対陣のうちに孔明病死されしより孔明の死後には仲達にきそはつ得どもなる大将蜀のまもりなくそのうへ魏はますの運つよきゆゑ終に蜀をほろぼして魏のてんかとなりしなり又項羽高祖の合せんのはじめは項羽多く人乃知るところ也項羽高祖の運命牛角なりしをおとろへぬるに高祖の大将韓信と云人項羽と牛角

なりし故末にも牛角なりしがはじめのあひだは項羽がつよく御方はまけし事度々の合せん又は項羽のうち也されども項羽は慓悍猾賊にして徳なく高祖は寛仁大度にて徳あるゆゑに張良と云者徳をしたひて名将あまた従ひて項羽のちからは漸々におとろへ終に項羽垓下にて敗軍して烏江にて自害しついに高祖の天下となりしなりかくのごとく徳ありしとりて徳ある勢力運命にて勝負善悪をよくよく鑑孫呉兵法のごとし

伴克曰徳勢力運命牛角にて勝負いかでしらんや

師の曰これは相碁の勝負のごとくかくのごとく敗せんよりも天時地利の勝

居あり照識心海となるべし

〇術究問曰聖人賢人英雄奸雄の差別いかん答

師の曰文武合一の明徳十分にあきらかにして本心千万人にすぐれ神明不測の妙用あるを聖人とす三皇五帝禹湯文武周公孔子これなり聖人に一等おとりたるを賢人と云伊尹傅説太公望顔子曾子子思孟子孔明王陽明などこれなり徳と余の才は賢人に一等おとれども大かたの才は賢人と互角なるを英雄といふ管仲楽毅孫子范蠡張良などこれなり大かたの才ぞあり逞しくその才あるゆへ明徳乃うすきを奸雄といふ項羽韓信などこれ也[illegible]

などは日本にての英雄なるべし聖人の才徳は天地の神明とも云べき程は神妙不測広大周備言語道断なり又賢人はさしも大なる聖人の才徳をかりまなびども神妙不測のところはなしかくて英雄は大かたのさいかくは賢人とおなじことなれども余の才と徳とは賢人より一位おとりて英気のかゞやきある也聖人賢人英雄この三人は才徳の高下大小ありといへどもいづれも君子なれば治世にても乱世にても天下国家の重宝なる人なり奸雄は敵を退治する一科の用にはたつといへども賢人英雄よりもおとりし徳すくなく邪欲ふかければ猶むかしの遊人のうへにありて味方の害となるべし

さて天おさまりてしづかなるときはせねまで國（くに）をとらふ

乱（らん）をおこさるの世の聖人もわらしで其うをまよ

たまたまは賢人英雄もまうさきよまれたのしまで世俗（せぞく）

の心おくらく奸雄（かんゆう）のをよまよひ心の奸賊（かんぞく）を帰（き）らかして

あらはれ英雄なりとしてやしなひとめうけれ天下

をうばひとられ毎にふ天子（てんし）諸侯（しよこう）をもおもてにしくくめ

のさやうなるぞして此用心あるべきをなりかたしかくぞして

奸雄（かんゆう）とまうすはひげをとなりはかりごとに大ぞうの心

いふこと候奸雄をせまして砒霜（ひさう）巴豆（はづ）なども毒（どく）

薬のごとし毒薬とてもむかし痼疾（こしつ）の病にはやくたち

治れたる病（やまひ）をいやすこともやくにたち

さうやうなるときんぞよろしき薬味（やくみ）なりとも

は病をおもふべからず死所（しじ）にいたるべきもの（る）のごと心得て虚症（きよしやう）

く心奸雄を敵（てき）とあつかひ賊（ぞく）を擒（きん）にするごとくの

しきともくよきは臣下（しんか）なりとんあて大國（だいこく）をあ

くあるひは天下をあづけおくぜもあるよろしきぬ

まかせれて天下とうぞかれ給ふなりの聲（せい）の砒霜（ひさう）巴豆（はづ）の

能毒（のうどく）をよくしりて卒爾（そつじ）よりもちひざるがごとく無奸雄（かんゆう）

ともそのまへとをくとよく肩弁（えん）して金銀（きんぎん）をもつて掏

奸者のはかりごとをしれてこのむところの欲をほしいまゝせ

乱義（ぎ）をたゞしく志ありて奸賊（かんぞく）の心をとげざる程にあやうき

ものなり簡要（かんえう）なるべし大事をわすれて接（え）をおもてへあづけぬ

まで必わざはひをおこしたまふものぞ天子諸侯よく御用心
慎しまれてしかるべき事なり

○術光問曰棄勇と志ときは必ずあやまりよくおほせ
まじや師の曰さやうの志すくなき人は財宝をも
ちゆる大道不及のあやまりにて必ず主をもわろし
棄勇ともしるすべく中庸道當の用になき
事なりしたがひて上へも下へも庶人にいたるまで
財宝ハ天下一大事なり然れバ大なる義理ありともむざ
とちらひはいたしおくべきにあらずとみだりにあたへ
捨しぬる浪費の奢なる者の知行をいはれなく
諸侯大名に下がしていくらでも財宝を

あしみせざるく主人ざる財宝を惜さまうとせ君子清白
廉直の行跡に似たるにて凡夫俗人ハまよひてよ
しと思ふなれども又決して然るべきにあらずもおしきかぎりは
浪費ハふべきの義理ありてもあたへざる事ハ吝
加増あるべき忠功ありともとらせ奢侈の世まで
諸大名もこれ下分際なる事ハゑげらしく物をしまさむざ
とらひ貴きも財宝をたくわえ鄙吝と云ふ君子倹約を
まもの行跡に似たるにまよひて海かくのん志なる人
見まがひてよしや此ゆゑともの志すなきもさやう
なるも皆明治の心かなよりとるより有るるの病
にて天下とうしなひ国をほろぼし家を亡ぶ根本

上三

なりはひつとめて工夫[illegible]べし ○傅玄曰志
[illegible]ともなく棄用すとも[illegible]工夫[illegible]
[illegible]や 師の日[illegible]処也[illegible]
て[illegible]しる義理を中庸とおもひければ中庸
適當のみちと聞えて[illegible]として財宝とおもひ
[illegible]大きな不[illegible]のまちがひしあはせになりて
ともしきときも名づけては[illegible]ありさそて工
夫乃[illegible]まで私欲のけがれなきとて天乃の義
理を鑑とし時と處とを[illegible]ひて
[illegible]と[illegible]おして[illegible]用は[illegible]
[illegible]財宝とつゝみて公用私用[illegible]乃

事ばかり公用なり天下のための[illegible]あり
軍役公役の外雑用あり私用は飲食衣服家宅器[illegible]
等にて[illegible]つゝみて奴僕などのざうよう[illegible]あり
費えざるものの用もあまりにねがふ事一偏の私用なり
大きなる費え也凡人たる身のよきことも君子のよき事な
ることも也中庸不倚乃心法をまもりてざいほうをとりちゆ
まで私欲の為にすれども[illegible]清白廉
恵ましてて私用を公用と変じ因一天理となりまつり
中庸不倚の心法をまもりて[illegible]せずよ財宝
とりちらされど[illegible]あまり[illegible]私欲の
けがれなきようにて公用を私用とも皆無費也

上ニツメ

変じて国一人欲にあつまりて作逆おこるべき事
なり
〇作元同曰国大名あるひはその名望ある人乃身一ッ
わしき麻きにつまりておりけしや師の
曰私の一字なり私ある人は必ず家滅ありし家滅
ある人は必ず人の異見をきいて世のそしりをきく人
思ひは偏よ我心まかせにまつくさぐるきをぞおし
きことまでもよこしま用もあげざる
柳まこの偏なりまづ湯の一なまでしれたると
も挙しむもとしめて其あけをわいくちにとのたを
むかし佞人ともちつづけあて功ありては知行など

し死あるおとも刑とかぜもこさばあいくちほしくれば久
功ある者のどもうとをちつづけぞ功あれても賞
とおくべぞ罪あらは刑とくわへてときの不義無道の
後は志操きみ私のん根よりもひろがそる枝
葉なりかくのごとくあれば国は軍法みだれて
終にはその国かたぶくもの也よりそめまでも家滅の念お
こる時は我身とうしなひ国をかたぼし家と廃する
魔人なりとおそれ慎しむべし
〇作元同曰徒侯卿大夫の身一ッ守まおこなひてうき
るをそいく師の曰猫の一字なり我らふなたり
きとおごまり滅する魔人の根とそちまて義理の

上ニツメル

善心とわきまへなし。かりそめにも我まゝなる人をあなどりおごりかろし。めしハ慈悲ふかく万民をあはれみ、謙礼をたゞしく、貪瞋痴のこゝろをとゞめ、我智恵をみがきてまなびそ、善をこのむ事色をこのむごとく、悪をにくむ事を悪臭をにくむごとくなるを誠と云也。大舜ハ大聖人なれどもかりそめの事をも人にとひ給ひ、邇言をものこさずきゝましまして吟味ましまして中庸をかなへ、悪を隠してよきをあらはし給ひ中庸をめぐみをそゝぎたまひてあまねくほどこし給ふ。孔子この事を挙てかのおほくするによりて大舜を称号したてまつると賛美し給ふ。又周公旦ハその嫡子

伯禽魯国のあるじとなりてくだりける時、周公旦戒伯禽曰、我文王之子、武王之弟、成王之叔父、我於天下亦不賤矣。然我一沐三捉髪、一飯三吐哺、起以待士、猶恐失天下之賢人。子之魯、慎無以国驕人。これは戒乃こゝろハ、我親ハ文王なり、我兄ハ武王なり、当今の天子もまた甥なり、我くらゐハ摂政冢宰なり。天下に並ところもなきのたかく驕もあるべき尊位なれども、一たび髪をあらふうちにハ三たびあらためて髪をにぎりて出てむかひて賢士とあひしらひ、一たび飯を食するうちにハ三度くちにふくみたる含哺をはきいだして賢士とあひしらひぬれども、猶我天下の賢士をうしなはん

とゞろ無礼のあいしらひありて賢人にへりくだりあへこ
よくとおそれつゝしむぞうやすん~~哉~~お魯国へゆきてまふを
そまゝ小あそびおごり乗れしして人をあなどりかろしむ
あるゝそれ我でく情むべしとへ海しめ毎まふ
ありけるは文王武王成王とあげて代々の君ともしへと
のさまふを周公のとごりて謙徳とうしまふを讃の
くゝの言きゆへなり志ろにくゝぬの掛握たゝきさる
とあげてとゞるべきところとあしりにまふかどたゞひ
き寺もしと従かても謙徳いよくふうくあるすとしぐ
うしもまし海さねむまてられより下なる佐よある
そのきつてもおよびといまし先ふまふ主ぶくあり

さて一沐三握髪一飯三吐哺此二句は能従のことばにして
かりふれるゝへまつる謙徳によりてかくしく握
してもおごりの心もひろまきところとあさつめんため也主人
賢人をうやまひ一沐まてにも髪とりぞりて膳ともりた
まふ小哺をときたまふはあそび大章周公の
老後書賢人そのしちかき天子家宰りてかくのごと
くまでしまで末代の天子諸侯まかりあさきのひと海
やまる謙より大きするべきなりとおきらか余ほき
海べしと授へまでとおさめ天下を平らかにする良教
謙の一字まさにして海まる道徳をもてしへんで海おのれ
万民ハこれへでもゆゑ也海を卑下するにまかせて天下の

ぜんすゞがみちあつまりゆきとゞきて天子諸侯德澤にてましまし
まで[illegible]國天下は萬民まで心を一にしてよろこび
ことごとくこの世天下の賢智愚不肖までもことごとく心よく遊び
しらずしらず八百天下しづかにをさまり太平がなされ
ぞ易経に天道虧盈而益謙地道變盈而流謙鬼神
害盈而福謙人道悪盈而好謙とかきたるも聖賢
のよく〳〵尊信あるべし

體充問曰今時の諸士の主君とあふぎたてまつりて知行を
とりあづかる士分とおもひて手柄ありて[illegible]
師の曰それ士道のぎんみよく無用ある[illegible]やまりや
法ありて[illegible]をつらぬき軍功をあげて位をあげ知

わがともがらが眞實の士分にて士のてがらとおもへる德を
まもる志ありてかく軍功をなしてそれ[illegible]贔屓をかまへことさら
衒とよりてかしましきほどとかぞへて力よとものぐるひ
なりし商の士分とおもひてあき人の門をのぞくんで[illegible]
[illegible]おほくおそそへ[illegible]士分をすゝめても心得すまへ
まことにむつかしきなれどもおもしく八百ぐし士分たる
心がけ商人の利心のごとく貪つらうさるなく義理をまもりし
ござうなくて八仲の勇をも[illegible]がさるべしかやう士を
忠不義ありて用ありて[illegible]ためしなりとも我物
まことに未來[illegible]法大名の商
士分のてうて上[illegible]人をまもるに[illegible]くさに分れ

衆

知行(ちきやう)にて抱(かゝえ)ゐまするとござりまして古の軍(いくさ)を作(やう)た
まひけるせんとのかひ入りてそれんぐなる猶(さ)[illegible]
てましませし諸葛孔明(しよかつこうめい)のいやしき陋巷(ろうかう)へ蜀(しよく)の先
主(しゆ)の身(み)自(みづか)らふたびまで草廬へよびにて給(たま)ひ
てその[illegible]相を一段(いちだん)殊勝(しゆせう)に入(い)れども人品(じんぴん)のぎんみあるか
みて名分(めいぶん)の知行をすてゝ毎まよの[illegible]主君(しゆくん)のさ
まつりげとあり諸士乃風(ふう)これによりて日(ひ)よりよそみ
ありさまにくもあさましくなりけり
是ありさまこそなる人と景教(けうきやう)まし海(かい)よしにあるま本乃
風(ふう)をそ和くあり子細(しさい)をいふに師(し)の白(はく)心学(しんがく)よ
くさまに中(ちう)を義理(ぎり)をかへて海のりて新(しん)家(か)[illegible]
伴元(はんげん)曰(いはく)諸士(しよし)六義(りくぎ)

ぞ世間(せけん)の作法(さはふ)はおやうなるかし心学(しんがく)の見んと此士(し)八
ようし海するの名利(めうり)にまけりてもの也今時(いまどき)のかうしい心学
のきびさかなりのたりまれど商売(あきなひ)の人(にん)もあり上手(じやうず)なる士(し)乃
時めくと見えさてうやあやりの我(が)をくしとまつるとおも
うき世江戸に風(ふう)きるかくのがれてまたのぎんみいとし古(ふる)
風(ふう)にく時にあまりかぞでて心得ぞあさ海しき作法(さはふ)
となり極(きは)めぬるをもむまくらするなりを大名(だいみやう)の
景教(けうきやう)しそうまで機(き)なりしまきの[illegible]
その國(くに)は諸士(しよし)人々と見え武士(ぶし)勇士(ゆうし)と[illegible]
漢(かん)しかよその字あしとなしまゐの久功(かうこう)の諸士(しよし)と
ぞ精要(せいよう)はりて御なま紀衛士(ゑいし)と海あしく思[illegible]

志をとげよとは揣術なきにてあるべし　伴克曰かく

りごとは二君に仕へずといふごとくまた君一人にかぎらず

と虞公せざらば正しきなるべしや百里奚も虞

乃國をさりて秦の穆公に仕へてまさる國

孟子曰賢なりしをしめされぬをまた君をえらへ

て虞公をよくと去りにあるむずとしは偉きかくもれ

なすの評判にてあんき　仲の日それなきをゆりての

くらの心はぞこなひなくば百里奚のおとしく心ばかりなく

力なきありて比欲心なくこそ境遇乃勢やむこと

をゆるして主君をえらへて虞公をもろは功を去らし

まさむ道なりとその心えられて力なき事をしず立勇乃

欲ふとの家として仲のもとにをしおく事勢の衰む

ことをゆるさざるものあらで主君をえらべて虞の倒るる八

ちかきにあらぬともの評判百里奚まことに虞の

あの臣下なり虞の君不義のおこなひありてたちまち

ゆくでかなしはざるものあるはまさに己をゆるして虞を

さりて秦の国へ仕へそのときの時やもし既に七十あり

ぬ秦の穆公その賢をしりておよびてまびぬすすめられ

ちかつみなりて事へ然されたちりこまさ君とつとなら

もとよりえらるまでの仕なる虞公に仕へられども我の心に絶

えど八天地鴻像なりとあきらかにして位せ

んなかれとのあきらかにしたる主君をえらはるるを必ずべし

さむらひと定めおきたるもまさしく主君とあふぎ奉ると也
此ゆへ世のさむらひしかるも皆欲に泥みて侮る也心いまだ
よく義理にかなはねば二君につかへざるをもまさなきことを
かえ勤ても背心し主君をそのまゝにあふるやと
もあれかくもあれ只その心ざし義理にかなふ事を
むねとし士たるもの心あるべし

○術究問曰士たるのぶんをいひて伝へらるゝ事ありや
師の曰むかし齊王の子墊と云人孟子にあふていはく
四民のうち農工商賈へはおのくそれぞれの所作あり今
士とよばるゝ人は酒嚢飯袋とそしるごとく綾羅の衣服
をきて美味を飲食にあけくるのみにそれだけにて

さげすむ所作を見てはさむらひの何事を所作とせし
とおもふのまゝやと問れけり孟子の曰農工商賈は
ちからを労して人を養ふを事とし士たるものは心を
労して人をおさむる事とするゆゑに徳をおさむるにあらず
して仁義をおこなふべきの所作なりとおもひたまは
ゞ志ある時は儒道をまなぶべし士たるものはまづ儒の心学
をよくよく学ぶべし左なくては吟味兵法の家
理にあはざるものなり近代甲陽の縁玄は文学を
失はれて強吟みに偏なり大将なりしかども儒
の心学をまなばずして軍鑑のぎんみ其義理にあ
きらかならず八まくたなく備あるべし

何克曰武篇の家にそだちたりと士道計守りとしこゝろざし
平生人明徳抔はさら〳〵存じ不申して仁義をおこなふと云ふ
ありとおぼせらるゝまじく候へども世人には素直と心得られさふらへ
ば正直までなれバよくもあるべし然るハあれどもむかしも今も士の
道を云ふ人もあまたあれども然らバ心学ハなくして
ハかなふまじく候哉いかゞ
師の曰盗跖と云ふ盗人堯舜禹湯
文武なんどにならはずして盗をなさず
の仁義あれバこそ八百人の盗を率ひしと云ふ也然ればこそ
盗人さへも仁義を用ひざれバ盗ハならず況や人の道を守る
志あれども明徳といふ仁義をしらずして
実には道に入ることかたし明徳仁義ハ人の本

心乃実なき也此本心をしらねバ知られざるといへり
人なんぞ明徳仁義の心をしらん一人を殺すも罪
あるべき仁なり君に忠とは義也孝行の
心とわきまへずして正しく行ふことなしと明徳と申す
ものなし仁義をおこなふといふはこれをまなぶと心学也
と云也武篇を学ぶ人の一つにして孝忠心法を実と
なれば必ずしも学んで此の智のなからんハ正しきにまよふ道
へわまだ武篇の学ばしまだなり世になくして仁義
とおこなふまじきに思ひただといふものハひがごと
無道にしてその人を殺すまじき君に諫数しめ
悪逆といふものにして士乃道をしらぬなるべき

まりぬかゝるゆへ今も昔の事かはりなれど仁義
の道ともそも古の道をも知ち世にもあさまり忠良の爲に
にまた所服にも紀とるべしされバまさに仁義の道にそ
むきて欲のまゝにふるまひ勇をもむかん人ねじけ人
にして悔恨はあらじ波るを何の吟味もなくいか
渉はまさけく臆さぞそだして人とこ渉まするとこのむ
とおくんの事しなとく心のねかひハあさく悔しくなげゝ
しきことなるべし
○許免日あ理せ理りむまそ
それ屋へどもつまぐく川にはけく臆ぞそ乃毎
しそく形く武見ねるあんかとハいかん
師の日あるひき合戦乃場あるひき悔恨とそくてらく

爲さけれは八ことけきかぬまひあくてゝかなね事なれど
も平生無事の時ハ治まるさきるゝや戦陣の事にあ
とても平生無事の時治まりく事にけき悔かまいとた
しなくねかまき湯の水とさきとやしんあつかふ事なし
形ちなるべし　たとへバ軍陣の事しなくふとそ平
生たるまゝのけて足冑とてるかおとしそのうへ武藝
とおかひ軍法と事かぶる悔恨の事にまけなれバ嘗
乃事しなみむなりいかにはまけくらぞさへと毎
しなさ人とこ渉まするとこのむハ武篇は事けはな
永りの爲におもして悔恨のさくさけとなるべし
その子細ハいかにけく臆ぞそとかしなむ人も必

人をあなどりかろしめてあしく云心ある事かならずしもふよわか気必喧嘩乃大死となり親にうきめをかけ主君の恩をしらぬこそ浅ましき事ども也寵愛乃ふかくしてまなけなりともかゝるあひの流に絶えまことならぬ心あくん古きまちあるべきさうなりけれどもこゝろのやはらかなしていろをわけくうですてれ事ゆめしかるみなくてもこ孝忠の心ざし真実なれば必ずかんつゝまさ従ハ機ハりし揚香と云人はむかしの揚香とし十四の時父よとつきひて山田と刈ゆかるゝに心へ虎ひとつ出きたりて揚香をくひころさんとせしと揚香もし里父彼虎の頸にいだきつき父の危きをまぬかれけり

されどこの揚香ハ十四歳になれる女子なれどもいかなるまことけく勝れぞそのましわざなく柔軟なる女の勇猛なり志あれどもたとへば樊噲なりとも及ぶまじ武勇あれどもいかでそのぎをしずめいせんかたなしてこそ孝忠仁義のそしあるまじき前あるまじきことなし揚香わかくれども武勇ハなくして父をふかく思ふ一念の仁よりいでたるゆゑなれども孝行忠節の心より真実なれどもそれ人を必ずかん情けふかき理りあさからぬ道理にしてそ仁義の勇の揚香とよくよく作法あるべし

翁問答巻三 終

翁問答巻之本 終

4

翁問答巻四（原本、下巻之末）

4

6

次ニ下別候

同

別行

体充問曰狂者とハいかなる人にや

師乃曰狂者ハ居体廣大高明なれども悟と云どもしいまだ精微中庸の密に悟入せざるかたありて見性成道の心術粗雑迂闊にして修行未熟なり然狂者なり其類大唐にてハ許由巣父牧皮曽晳子桑戸荘子天竺にてハ釈迦達磨などハ勝れたる狂者聖人の生付志ハかハらねども為学して見性成道もる位よ上中下の三段あり中行ハ聖人の下亜聖の大賢なりされバ三段のうちにて第一段上の位也狂者ハ中行の下第二段中の位なり其三段下の位ハ狷

三行ヘカたん

にて候

~~翁問答下巻之本 終~~

翁問答巻三 終

次下別行

翁問答下巻之末

三行分ケル

体充問曰狂者とやらんハいかやうなる人にて候や

師乃曰狂者ハ道体の廣大高明なる所をとくと悟と云どもいまだ精微中庸の密に悟入せざるがゆへにて見性成道乃心術麤迂闊にして修行異相なり迹狂なるものありし大唐にても許由巣父牧皮曽晳子桑戸荘子天竺にても釈迦達磨など勝れてる狂者聖人の生付ならざるかゆへ真の学なくして見性成道ある位よ上中下の三段あり中行ハ聖人の下亜聖の大賢なりされハ三段乃うちにても第一段上の位也狂者ハ中行の下第二段中の位なり其三段下の位ハ狷

者なり学問してもただ三経乃伝によらざるハ俗学と
いふものなりよく俳優とすべし
く荘子やまでも巣父許由曽晳などハその教の清世に
はさまれざるに釈迦達磨の教もその生死のみを説ず
天竺唐日本まで流布仕る何なる故にそや

源の曰よく紀かしんかれ古来此ことわりを分明にと紀あきら
らかにゝる人まれなりたとへバ聖人を日の光にたとへ荘
者ハ星のごとしひかりを日の光つよ紀ゆへに星あるを
しらざるもその光見へ故に夜に入て日光てらし無き
後にも星の光あらはれそのごとく許由曽晳などの
時代に出る堯舜孔子の日乃光千時に輝故に荘子の教お

事ぞも自己の見ばかりなれバ信仰して更用ゆる人
なきゆへにまぼろし荘子をも教とひろめんと思ふ心なく
て教乃法をもそまざる故に末代へ伝ふべき法なし
までにて聖人乃日の光かくれ無ひかり此教とおのづさ
るゝ職あまりぞまでてろ荘子をそれ狂見とて伝へ
いくふるまひ人におしえけるとあらはして太唐の荘子の
教の始とあまり志されども聖人乃日の光かく神多
まひくさまざまほどせんと上ね故にその星の光甚か
ど是まく聖人の日乃光をきめやとの名の本さ荘子
乃ほしの光輝くことを察るべし太唐ハ聖人の
まさ出来まひて三才一貫中庸誠敬乃教さかんなり

おこなはれたる人出の日は光かくして遠くおよばざる後世
荘子のごとくなりけりとして天竺にも漸く聖人一人を
出せりといへども開闢より釈尊の時分までは神の我
なれば釈尊の在世にも教を衆生に信ずるものなかりし天
竺は聖人の出て教なき国にありて三才一貫中庸精微の
密に悟入ることはなくただその広大高明一偏の悟を
大覚の悟なりとおもひ定め天竺戎の風俗によりて教の
法を立て衆生を教化せられけるそれより大唐も戦
国の後は気運否塞になりて聖人出給はず
ところ神代よりひさしき時分に天竺の狂者釈迦の
法始めて大唐へわたりひろまりけり聖人の日の光午の時

と輝時分なれども中々ひろまる事なく其の説授を許
曾皙より老荘起りてまさる白たり此時大唐へ
西域より祖師来る時分大唐に仏法ひろまりける最中
なればそれをきらひて日本にも流布せしめ元来釈
迦在世の法を立てられける根を衆生にまよひ
てあさましきていとおそれみかなしみてくさぐさ
乃窩云を立勤て古徹の本よりならば一派殊勝なれぜ
色その後狂乱なりけるに天竺戎の風俗をもとにして立
つる教は法なりけるを遠狂偏僻なることしたりつま
なりその上もとより其の善意真実無二の至誓に
はしりし三才一貫中庸精微の道たるに推しなて人極

乃さゆゑなりとあることも多し聖人中庸の法をたて迹をのこす
過ねまじき人欲のきはまりとおもふものなきにもまして狂者偏
僻の法を迹なかりとおもひとりおこなふあまりて無知
釈迦達磨の心をしらず勧善懲悪の事をあやまれりとも
また流にある善とおもひて悪をもなせる人なんどまよはしぬ
なべて演声をなさしめむとしまれる書代の流をとしむ比
迹のあやまりとなすがゆゑその教法粗疎迂闊なる故なり釈迦もし
なまじゐてその教法粗迹迂闊なる故なり
達磨もそれをきゝてもし狂者見て所詮熟せざ
らずかくし法中庸精微の奥に悟入して中行の位
に進めさるべしたとひ中行によりめされずとも浄

曽晳などのごとくは何ゆゑかく世をさまでに教の法
をさへ立あきらめずして聖人お世にまよひ海をさへ我ひとりわたる
てその法のひろまりしこと幸に似たりと不幸のもとひ又夢の
仏光曰大唐と天竺と八千万里隔たりとも以後の
うへ釈尊の絶法と大唐の狂者の絶法とはちがひさ
ぞ下あしく候へどもあやまりし狂者とはやがて移りくらぐ
師の日てらずも絶法とみて吟味浄第あるは心言自の作
先代目ざまへるはとあきましきまゐりひなりおれちがひ
絶法あるとむはなすともんのかくしさしてもて中々大に
ては儒者仏道は老荘を弁へざる事八歳だる
読ずしんあるも不渡ましてんとして鈍案なる理をおさ

さるべし。尽十方世界は是なれども極楽ありといへど
如来これ大慈神通のうちに開闢しらるがゆへなれば
神通は十方世界に行ひかなはぬかさなりとて
備るとねまがしとも風俗をかへるといへどもそのちれ
そうねるま如来同一体の神通なるによつて唐土も天
竺も我朝もまことそれ郷するゆへあらゆる古代らも
説ちがふとおしかくあるゆへよむんの眼あきしろなる
哲人まで不すよつて知られる道をまそて何時も
ど同一体なるんをもて評判するなり故にして聖人
も賢人も智者も愚者も一んすぎて見性成仏なれば其の
外よく観察してその位を定なり荘子と釈迦達磨

一字上ゲ　一字上ゲ

にあらず他法とちがひそれぞれその人は見性成道八方抱
ドうてゐなるがよつて物知と云仏とも名こそちがひ
ねまども見性成仏の位をひとつなり天竺にて
仏如来と仰ぐ衆人乃心の位を大唐にて物知と名
づくる中形よ申し下れ人乃心は修なり羅漢のなを仮
勢のなまゑ見とやろ続の無なりとゆんなし

別行
体光日見性成仏れん乃位を観察すること中々及
乃あそびがくさま一番ありいふ物なる字向まそれ又人
知べくるや

別行
仏の日同まで物と見ろふこるとくあり
下を見んあるとまし八見あしてみぬありひさき十町よ
又上へを見んあぐるてとさ見んしかくして分ぬあるもざるも

ルメツ

の有りゆへ心と鈍きなるをしかくはなし聖賢の人は至粗なる猶者先生の心と見るまに日月の天地を照らしあまねくてらすなり粗なる猶者先生の心ぞ聖賢の心をひとへに見るは愚なる時あらはすまでも言をとらるゝにまかすちば志つ經に是傳の人是傳の身子が外の子向にて中々しきまへ知るとたるべく唯是傳のんを子ととし切磋琢磨してぞ大覚の僧の位に至りぬまで莊子釈迦達磨等どのんを鈍𡚒にまふるとも白屋に上白とわけゆへくなるべし莊傳は学句をもちゐるなりて八聖賢の人とまきまへまるとも富士の山の上をは山嶺と名付てなくなりてなりまるゝ故に釈家は流をくむ人に悟りの聡明

なる人はまくいづれも偏に我宗の佛をもちゐしと伝ふひて或は佛法佛法のあさき教ぞ傳ふるは上の極ぞ語あるへし或は釈尊も大聖孔子ハ小賢なりとて云或は内典聖教なり儒教を外典儒なりと云或は佛教ハ外道なりなどゝそて世をそもし人をそふかねあるを地になかさせるまつひつそさんでそれさまにはのあちてゝたまれよ世よ人をあげよ微塵もそその名をへぬ釈迦達磨の人のしるへきさの悟りと言ふとのへ我慢邪慢なるたゞひとりにさとりおやまるあげつしなるなるべし悟聡明なる人はかくれたるとりまか

ゆへしる教乃法中庸まで云ひきたる事はなをそ至道の
心経をまもるといへども末流となりて学者理味をとらみ
文で皆筆への形とて蒼へしとしたる故なり擁護と
あしそれゝんとかまふ我慢乃魔んとなしひまて儒と云
佛と云名をとりわれて千載済實甚不貳一貫の心学を
法しらそ太虚廓然なるをさとりねまでは何のうちう
ひとしおなりのなり

佛光曰先生の教を承て佛ハ
聖人とも二法ありとしたてたる具一誠成なりと云儒者
曰我遣三聖化彼真丹と云経文あり此文の意を釈云の
佛力をもて佛弟子三人を大唐へ渡らし老子孔子顔回
聖人と仮なさせて大唐の衆生を化度したまふと云
偽なり此経文にて見れば孔子顔子も皆釈尊の御弟子
なりしが教乃因縁をしらさるゆへに孔門乃儒者だ
是非佛法をそしりそしるは何の故なりといへる
事であざなり此は何といふか教なる因縁もあることなり
てややー

佛の日ぐれをかさらひそびへなる浄門佛学
なりとさたあて井の中の蛙大海をしらずといへる
譬の如く佛法をもとよりあらかしと自慢十分なる
およりて儒者は佛法を外道といひて我慢の邪心
甚しくなれを理はさまで云はるべき者皆あさきによ
りてなる法なりとして釈迦より起て儒者は外道を
此せくりの事なり釈尊は狂者なるればをしらうとも

きくこゝろひまであしきひきわけしんその中々ほうぞうじおもはく浅ましき作りごとゝして釈尊を尊といひ比丘とまふす事誠に釈尊の聖人なるべしされば其の作り云乃文字なる子細は人間の生れと父母のまさしきおなじくなれども父母のまさしきなるにはあらずされども太極宮上帝乃命をうけて天神地祇の化育しあまねくところあり志かるに此神理をさとしまへずして釈尊の仏力をもって仏弟子と大唐へきたし孔子と化現させあされけるなどといふは片腹いたきつくりごとなるべし仏者のうちに仏像を作る細工のうまくなる人在来多ければ釈尊乃ほり像の仏像ありされどもあんとをいふべきなか

釈尊の仏力をもって生身の人とうみいださせらるゝなどあまりて腹をかゝゆと云までもなきことなり上釈尊の教覚の位より大唐の狂者の位まで孔子と申すものをわかりなる見性成仏なれば釈迦の弟子の化身とまで云かくし趣して仏書ハ皆寓言まてかくしつもりの事思ふ愚民をすゝむる寓言の筆法となるゝゐて信なるをしらずそれとおもへる沙門の心根おろかにて浅ましきにはあらず我慢の邪心ゆゑにこそ猶つくりごとをなし或ハ伝書の文字の皮膚ならどとまなび骨髄の理味をもしらせしめて云ふ儒仏の浅深云ふ下様実内外の差別をも立仏を尊信し信をぞ志り

ぞかし沙門は古来そのことを云ふ時にも皆他人を貴び愛してその親といふ事をしらずむしろ凡人のまよひとぞ天下は嗣ゆくなればもあらう渡ましましそうら哉その子細は天神地祇の第様は父母なれば太宰の皇上帝は人倫乃太祖にてましますは神理にて是れが聖人も賢人も釈迦も達磨も儒者も佛老も我らも人も世界のうちにあるもの何くのほどの人は孔孟も皆皇上帝天神地祇の子孫なりさてまた儒者はまかるも皇上帝を神地祇は神なればこそ人間の形にて儒者と云ふ者は世にしてその先祖父母をまつりても祀とぞむくなりまくしも論ずるごとく聖人乃大始祖乃皇上帝大父母は天神地祇の氣をおそれうやまひ天神地祇を諸宗にして父母をもちて孝行を名づけて到る道あるをしらずしてたゞ儒者と称くこれを教と儒教とおもふにこれを学者儒学といふにいたる学ではそのあまりにまことにおもしろからぬ儒者ともおもはれもとより釈尊は古へ大聖とさとりあまり狂者にもそでふしぎなりとそのむかし父の浄飯王の棺をかつぎ玉ひ梵網経には孝順は至道の法と説きたまはされて孝行のことは人のおこなふ其孝道の全体精微の窮まり皆へなりかねて中行の信やまのかりそめにおくむかし儒者を学めされてしたがふ事に三百の信文周すなはちまた孝経是の法と統その父の棺をにないたまひしあさ

讀ることなくおしなべて一宗の流をくむ末代の比

丘家慢の邪心多くましくてその歎をもとむるに至る

作なき理をとらへまよはずしてちからにまかせて偽像を捨るを

みゝのは無下にあさましくおよびなかるべし

佛說曰

集文[illegible]虚無寂滅[illegible]

[illegible]

[illegible]

せひしくたるき理にしたかふに程子曰老佛皆是正

路之蓁蕪聖門之蔽塞闢之而後可以入道又曰佛氏之

言比之楊墨尤為近理所以其害尤甚學者當

如淫聲美色以遠之不爾則駸駸然入於其中矣朱子曰

異端虛無寂滅之教其高過於大學而無實又曰

老佛之徒出則彌近理而大亂眞矣又曰程夫子兄弟者

出得有所考以續夫千載不傳之緒得有所據以斥

夫二家似是之非かくのごとく甚しくきらひぞけ

定められたるを何くするぞ殊にや

佛の日 集文

許虚寂滅を[illegible]壞なりとも孔子の日れひがごと

なり[illegible]その狂見氏教をひろめて世教のさまたげと

なるべし[illegible]其上程子[illegible]克念[illegible]人なりしがのちもつぞ

きらはれたるなり程子[illegible]のときよりも傳えられし

佛法盛にひろまり[illegible]の比丘となり[illegible]なり

せらるゝにまかせて[illegible]むきをか造ると

邪法とそしり世をまどはす人と難じもしはなはだしく
やむことをえずしてかくのごとくしりぞけひらきて天下後
世のまよひを解あきらめしめ給へり。すなはち孔子原
壌が脛を叩て為賊と責たまふの意を祖述して韓退
之されどさて擯しくるの義にあらず。佛氏の流をくむ
もの許由曾晳などのごとく高明なる狂見なりとも其
世教をさまたぐるほどにはなけれども禪子輩多くは
ひとへにあやまりて慈子（えし）仁孝の心切なる役に天
下を汚は深しく人倫と倫類の域にはなれ
おるとおもいれきになげすてられるう懐仔（ふところご）
迷てり佛者は勝むしよとの邪へ入て侵るぞ

務しづてくなるおそれあへてまで伊川曰釋氏之教乃
法とあきされたる言子勤君子盡懲悪也然れば
ことに此人の大意を悟りたる人それぞれ教は法のことぐ
世とおもしくく誑して欲域にゆかしめて至
まことにならぬばいつぞ師の曰不害むりは易学を
まさにおそれあざれば會臣蔵ぞ此処の其の度
子曰差之毫釐繆以千里
虞の太虚とかくうたへし毫釐の差をへたてりたへ
此の聖模の差まで仁の道ものやうにして追ぞ
議論のあやまり千里のちがひをするとなる義なり
おる役は先儒を批判しく精粗すなはち下の仏法の道
子此差おぶるは弁されば儒佛書をあれこれ知ぐべし

夫人間に迷悟の二つあることハ迷とハ凡夫なり悟

とハ声聞縁覚仏菩薩なり、その迷悟の本ハ一心に

あり、人欲のうへに無明の雲あつく心月のひかりかくれて

やみの夜のごとくなるを迷のかたといふなり、無明煩悩の

功つもりて人欲をのぞきされば無明の雲はれて心月の光

明あきらかなるを悟のかたといふ、此悟のうへに仏菩薩の無

相無念の中に法仏報仏化仏応仏などゝ名くるなり無碍自在

清浄信と云おのづから無功用の広大の功徳をそなへたる

故に釈尊もこれを信じたまふ、かくのごとく悟るときハ無為無

自然の果覚を具へたる真如本性之仏心と

此仏性を迷といはまたち執着無慙の煩悩の理路

禅家の大事ハ観念千七百則の公案皆これ端的に約

まるハ無疑清浄信無心無念の中に仏智不思議の儀

にして毫髪の按排といふまでなれども儒教ハ

未だ無得法浄の信ハ上にあらず不思議の識非とて神理

義無二の三不一の二ことを明辯して一隨向上精一は神儒あ

里はたゞ神儒の境を聖人と名くるなり天地背叛なきの

信なりハ神儒の胎蔵卒するを亜聖ハ又賢と

名く中行信なり中庸の無欲無為自然のまん體

得らる浄の信ハ上すて凡夫天真自背叛無ねは聖賢

ゆゑにそれの儀論行遮聖人にたがハざれ

なし又一天真の神儒と名く許由巣父曾皙荘子黙迹

蓬魔などゝ無欲無為なりし禅乃志んとおもふべかり
無碍清浄乃信より出てこれを我持の中乃山頂なるさ
定亦仙天真良背敵適此聖賢とせしもしさんとなりて
その心無欲無為清浄の徒なれそその道なり擒握の
淺縁行然猖狂妄ありにして聖人良背敵適此天
真よそむしきてり天真に擬しくと思へども無欲無為清
浄の徒の心家るにありて遊しと云為こそおもえを悪り
何らぶれども天理よかなはざれば天真まもおもし欲無欲
乃妄なりとと云もの有り聖人これを狂者と名付まふ
狂の字よ眼をとめて欲家をれば無欲は妄行なりけれど
多分ゆえ名徒なく作家まるは佛者さ元氣は異覚とさ
ありて自静と思ふ元神乃異覚とさし此無欲な
る自徒と仏法にして元氣は異覚を任する後ま之ん
虚聞にして其の行徒猖狂ありて偽者ありて窮性を
尽し数ま云とも法とあれど無欲清浄無為り能得
乃ちある云ふまおもふど元神は異覚の道ふ行まする極
なりて是は行徒中西なり偽者皆其則其心全細精
為則とん全体と楽軒乃発明ありれなるも無是なり
元神元氣ハ不二の二不一乃一にしてまたた毫釐は違ひ
なれどもこゝ幾縁り法のあやまりハ千里なりとせとし
あかるふよつて凡て殺法動著懲悪すそあるのまでもしぞ
みもしむのとる乃善皇極乃自著まありぞおもしし

いましむる所の悪しきところ悪のうちにも善あり実は悪にも
あしざまなる不淫の類これあり教主十九にて天子
の位をすて山に入三十歳の後人間にかへり悉く理を
とき給ふ或時は衆会して人倫をすていかに
まで種々の修行教方便説きして悪民を誘導しめされ
たるは皆これ無欲無為自然清浄の位を極めて定光
如来の実覚にはすなはち毛髪の差もなしされども無
欲妄あり誤ありその流れをくむ末代の比丘教を
勘へたる者は宗得清浄の位にその心地を得るとは勢
もして縦に欲する無欲にありといへどもまだそれ
我慢の邪心起して人を欺くとて云ふとて

弁舌をたくましくしてかりそめにも人に勝れんことをおもひ愚
民を誑かしおのれ独り尊しとして我執しげくなりいよいよ
我慢の偏執をたてゝますます名利に貪愛の
睡をまして寐ても仏者の大敵と遠ざかり
まれなるを貴しとしてひとへに父母兄弟を崇
敬することなし父母を拝せず兄弟をうやま
はず菩提の母ところとし真実の大孝なりとかた
り或は之を用ゆる幼の間のなしかくれて
善悪の性をもつて謝譲し或はこれを歎ところ
なり極重の悪人すでに念仏の功力にて八功徳水に
生ずるなど教誨せりしかれどもくろく海

こゝろを巧にし寓言を述作りて人心をまどはし含識へゆきへ世教のさまたげとなりぬる事挙てかぞへがたく乃むしくするものよくまねてざるの至衰流の沈弘に飛ありしかども根拠ある叙説あるのありよりおこりごときものなり釈氏は化を得清浄乃信をましとなどをこちあひ乃天真のさとりとなすは清はだ末ずけいれ別とぞつき子ねる事あらむ以て家壊と為る儒者は孔子れ同姿なり後は家壊なくすみしくてありさきあり孔門の清浄絶ぬまことにべきありと説おわりたれ孔子故有毋失其內意也しかる済ゐ文を絶さまつれど文をぞ絶へずのそざれ

壊夷後これをもて為猶とのごとましてあつきまつる様りて儒者は家壊の腫とぬるをそいはし先責はふ聖乃所然亦と情て考見る文を絶たましさるは吾未得中行而与之必也狂狷乎とのたまふ意なるべし隱とあそれたまふ事ありけれあやまりとはしらしめ中行乃位へ譲操あさまんとは不屑の教誨なるべしされはで洙泗の流とかの嘉信は聖経と憲章して釈そらの如くに嫌しもありときもひきぞ吴山の糟粕に酔て毎につまり洲門と教化して儒門良背敵欽此学者をまどはする事を仁民は一理なるべし

解光曰元神元氣無一不二乃理的にて候りくは狂者をも

て不得法佛乃信ずまするゝあれで元神乃端的をも
きらんめすぐさまして存ないで師乃日聖人ハ生知
あれ天とも同術ある人ハどのつりも元神元氣一靈人乃
妙用法像地あり大光よ乃下ゞ人ハ出学問修行ハ
わすら階をひとくも此なれどさ見性徹入乃後も階級
みざく次第あつ不ようゆて沛中ふれ乃く悟もたるとハ精進ハ
ぞまずかゝり犯者此さしまとふとざ積ちハやま
ざ悟りどころり此あり入で山へのかおし卿りく
よ里出産ひまで皆山此一体なれども嶺へのぼりゐ
ざれだ修行の業各と的綱よ見ふてわさかぞ名
ごとく元神元氣皆おなじく一人なれ此慈山乃頂上

小止得せざれで元神乃真覚をまりゆてあさまざま候
作元曰原松まりで中ゆよ以ずまうちは傳門の学
者を佛家の学者とあるじゃうそぞや師の曰その
此の位まるの奇妙也神学の間出あるゆ名れ其挟此
修行此なまゝ是あるありたくべき山峯のぼりがたし
傳門乃学者の力ゆもうたちる名号まずてよく通じぬる道
ふうろどのかりずとし平常不易の元するに数まさを
天まも云あり佛家此学者此修行もうそれハ山へ分不
ぶれもありて業ゆまず毎まゆるしみのかりゆさ
為おさ木と本やとまきて乃かりずとし険妙し
てゑふく人間のとくするゝする説よこ流とあり

しるべなり神学は同じんの信のちがひなどさまざまあれど山とのぼる
みちはかはれどおなじことなれば其高下はなくあるべし
されはあの下の者ますますてのぼり難きさまあらし
てのぼりがたしとも者おほかりよく修徳あるべし
儒先曰五戒をおなじとおもひあはせ人をあやまる
もはやなし儒者は此へあるべきところ経をねはいはで
釈乃曰ぼれぼきしね道物がたりといへり此なり是非ぶとしは
天神地祇の大徳人生の天性すて儒氏の総もしと其ふ
妙覚は仏性あまねく一つ信ましたる霊一天地の天徳を
つまあるをとふるまなぞづらそ備よひざきて戒の法をお
報じまくいふ金ぼ此者あちがひあれたおかし

なりとも悪徳おとくあれども其を難じ論ずるにかなはず
かまはずぬすみれたん学をよく志す人にまかせても
あるべし一仁者は人を殺すことを嗜まさると思て天理至善の
悪あとうきまへども不殺を仁乃全体なりともいふ所の殺
生戒を仁ありとはいふ先よ作る非といふのなかの其仁
天神地祇の人物を養育したまふ神なるにて人間慈
愛の心理なりといふ親親仁民愛物せ理の付よ
ならびきて其一家一本すもこれしざるなる仁者の意なる九
天に通じあそれど悪逆として生理をこころみ不料人をも
あるをそまて仁しあるあり殺をと不殺とはするなるず
して仁不仁を論ずるは愚痴なる凡夫の人なるの教へさ

殺生なくて吉事とするは不仁なり殺べき殺生の
果くころさずば神道の聖理をそこなふゆへに殺
なる悪者をあはれむとはいへ不仁なりされば今佛
氏の殺生戒はものをころさじとこゝろざすもれど佛
しそ人間とハ謀殺とまうせる悪人までも宥して不殺
とおもふことも仁に似たる不仁義に似たる悪是
似たる非と云なりかくのごとき世をもって正善の
非理なるにことさらしめんや偸盗戒と義あるといふ
を守なり是これを義を天道の刑にして人間墨
の非理天下の故に感通して天下の静なるを
だ偸盗の殺逆一つになりて至る廣大の戒なりと
云みかみ山と富士山なりと云ほどのことは邪婬戒
と禮なりと云ものなりされども禮は天道の尊
而して人間恭敬揖譲の非理天下の故に無して上
宗廟朝廷より下民間に至るまで人倫の交際冠婚喪
祭饗食軍旅等の天理儀則と展とこれなるに
葬されど不邪婬一戒は禮なりと云ハ一句の水也大海
あるとこしそのしるしところの邪婬天
理の意よりひぐして須その意の一人のおんなの
刑しなくて邪婬とするハ死法と云てくらきなり
しまり儒家の法よハ唐人なり意あ一人は定まりて天
子より至るまでその位をおの不庶人

世婦妻妾は員数限りし然乃天則ありて妻一人乃定よ従らども子細ある根本子孫相続の為なれば傍人に子はなきりのある役なりけれと是その位は員数乃外に邪婬なりその名数よ定まる妻妾なりとも交はる時よ交はすも邪婬と戒むるなり時の相応しよろ経律よ書てあるごと法は眼にしるなりこれを違法と云なりさてまた本家も不婬と戒ありて礼をましうとなを妄法と云ものにて候飢渇乃人は飲食を戒むるにてまふもど芸なる役よ末流は比丘婬欲まてへがうりよよりて男女和合は言ふなりされども夜大悪をとは重して陰陽の地不和合の害ゆへとて執着の煩悩起しと例乃家に角ありとと戒て一旦羽と聞しも色欲のうえりよしかまこみ善人と女乃形よ似せて叩き鳴会なれど云そ和尚上人は妻あともあせりまことよ濡はしとも中なる云護持清浄なり元来不婬戒乃法天理なりさしまう法するにまめて末流かくみだらく畜生もし部くりるある作法となるる文理に於て式なと開闢めされしなれど仏者は云ふなれどてそれなく又殊さまして菩薩乃果と成る人なれどもある海しよ破戒おるるにしよせてめぐる樹の又家の造云なるべしまま他は別なき観音繁り属しをうことのなりたるとし礼なりしとよる八徳の道

无案内なる故なりさて飲酒戒乃おもて所な善教の多
しるべし妄語戒と信なりしるある所也去ながらも
信ハ天道の至誠人間の真実无妄なれバ非理なき事
乃振舞にて明告皆百民を信ずるとのことなり
かくし廣大親切无執なる天性に不妄語一条を知しあ
はるかに九牛の一毛と全牛に當るほどなれども飲酒戒
を智あるものと云ハ心のくるひなりさなくて凡夫ハ
酒に酔砕して心みだれ威儀記くもなし戒ある事
ありさまなれハ飲者の深くして酒のよぶハあしくとも
こゝろへども会にしみて人の会をむさぼりて不作
乱乃傳法に従て酒と用なバ實ハ歓を合臓

とうりをしり気血を活し百薬の長とも云べし其の上
祭祀必用のものなれバ偏に禁制すべき物にあらず
まれには是非をよくわきまへ知る智ともなき不
偏におひかる戒とおもちて智ありとしも云なんや
その上智ある天道乃真にして人間是非乃冥成
理と妄として欲を撚と宰する神理なれバ飲酒戒
を智ありと云名をむさぼりと云ふなりしかれども
似て非なることをあやまりのありといひて真偽をそゞる
まゝ愚痴なりといはんや我慢あるさいやいはん強いで
嫌ひや法は大なるさまを邪僻なり間に高利にかなひ
あるともあれどもかうしとりそこより泥によつて死

法とありて更見まするに此旨を法に繋縛せられて無下に浅まし

体充問曰佞人といふはいかやうなるものぞや　師の曰ん物よみてころの上手なる者を佞人と云す才智たくましく芸能文学人にまされ弁舌よし邪欲ふかく義理をまもらず人をたぶらかす事野狐のごとく人をそこなふ事虎狼のごとくなる心根ある者が佞人也此棟梁ありて其虎狼野狐のごとくなる邪人どもよくかくして才智芸能文学弁舌をもて君子の振りをなしだけ引人をたぶらかすまでと狐の虎の威をかるあしびあるふらつく凡夫をたぶらかされて君子なりとあふぐそれもみなり古来は佞人ぞかしまだうちられて天下ともしまとうしなふ人多し世間よりもさもなき名をそゞき出家法印なども芸によりてあまさるゝに俗儒乃中にも佞人多くまじりけるもしれ見てかくのかまう真儒の別ちはまぎれ安きことにてや

体充問曰郷原とはいか様なる人をいふぞや　師の曰世俗のあくちからよさしある人を郷原と云式郷原は機転利根にして才覚人にすぐれ何事も裁判してもうとかくしむ孝悌忠信とはげみ謹慎無欲を事しみの立つゆゑまでともその志は當世の人此かむる所の名をもて君に擢んでられて立身するを利と

とりもしなく欲なくして義理とても法とすへからずと
名利の欲泥にきそふごとく、それあるも根なき事にして孝
悌忠信は則廣大無欲の本にして煩悩にしずみて根よい
ならぬをひとまとゐと見えて、まことにされど孝悌に似て真実の
孝悌はおなじく廣大無欲に似て真実は廣大無欲に
あらずんば義理を守るとして利害は分別利根なる
一すまりて無分別にて其利根なる扁屈
臆病なるがゆへ世俗のいふ八方郷原のまよふなるぞ
云ひなりにしてたりつゝ郷家を名利の欲心となし
て利害のなき利根あるふりにてかくたえる目から
やうやうして義理とかくてもとちからざる根はさもしく義の
すまじけなりとも所によりてかるくうの度二つとなる
君子はさりとも利根なれ共郷原は利根と忠利
根のしるをもつて郷原は利根なる名利の欲には鈍はし
て義理の是非は利根にて利害の分別もうごかさず
一すくに義ひなきは同前にてむしろもよく不義理を立通へ
ようにそれんまでも二つにすることをしれ共郷原は世間
にも屈き君子はまれなるまで郷原は利根なりと見なれて
かく云なくいへども直なりとも云屈やはり郷原
機将利根にして遊に事をすゝます撫に常らと其上
而れば郷中の君子の光華に似て功徳のそこなひ
とかくゆく孔子の時代にすくなく名まひて郷原をにくむ

俗なりと志るべけれバ今乃世にも郷原なるものぞこなひ君子なりと見てこれに志たしむ士をよくわきまへて志たしむともなふまじきことなり

或問曰法と禮法にもちひて而るにかなふは權乃道なりといふ及ばさることにておはしますや

師の曰權ハ聖人の妙用神化の總名なり大にしては堯舜の禪授湯武の放伐小にしては周公の法權孔子の陽貨に仕へ一言一動乃微に至るまで皆權の用なり志かるを經によらずして只己にかなふを權とおもふハ大なる誤なり權にもとづきてその誤をたゞしぬるなれ權ハもとより聖人の神化を權としたがふ名義なき聖人は天と同体並し

誅無息搏に凝滞せず獨往獨来法滯く地にしておこなひ無きに而もとく天乃神理に適當格好の景象稱乃事の定とまるなく往来滯まして摘乃權重をもちて適當格好なるに從ふ為あるにまりて象とまゝ大賢以下の人ハ氣質の累あるゆゑに至りて道を踏むにひとしく權とおこなふことあたハざる故に聖人ハ天下のために禮法を定めまふ其乳法を守ちて權の為なれども不法の定ねまハ道ありて變に至りては權としてそのまゝ乳法となる五倫の道を立る君子の流に禮法の道を立て實の為なりといへども聖人の法の外に權なの妙を法として禮法の

まことにあふとりおこなひ時中の神理よろしくをハ非禮乃禮となづけて君子のせざる所なり此非禮乃禮とを真実の禮なりとおもひ無智の人聖賢の跡禮法なりちのひとゝ守んでうしなひそむき禮と權を各別なすごとくぬんまゐるなり此權の字の精義を志らざれ心学に志ありて致知格物をとげまさとも云とも從修身齊家の地にまよひし大学の能通ハ權を得まかおのづから大丈夫なり能得し權をしらん受用まこりのあり法ありて法におちもと立ゆるところなくして其ざるなく定ところなくして定らざる処なき權字の理味をよく體認すべし

別行
仲克曰さやうにて初学の人も權をおこなひ候なんや

別行
師の曰權は聖人の妙用にして初学の人の受用にあらずまなぶとよいへども工夫の準的をあやまらざれば權を目あてとすべしたとへバ鉄炮を打ならふといへども狙ふ所を能その人の狙ふ所をまもらばちがひなきれどもいまだまことの的にあたる事はまれなり初心の人もかくともうちつゞけてかずをおそるゝときハ天地經綸ならひ重ねてハうちに必中すべき理あるべし權のごとく初学の受用と聖人の妙用とハ天地懸隔なれども權を準的として工夫せざれバ妙用に通ずる明らかなるべきなり

別行
仲克曰子曰可与共学未可与適道

可与適道未可与立可与立未可与権は聖賢となりて

ひとまでも権を初学乃所きくべきにもあらずといへども

此をいへば師の曰は聖賢も学ぶ人の前くるゝやうなる

ことの位をよくしても上達の志あるまじきといひし

めんくるそたまふ語いて初学の者権を知ざるまへなる

ずしのかまはまをおほく又可与共乃学をまるものは

一権のことを心まふ学なり可与適道乃人のもまちは

なり可与立乃人もまち〳〵権乃人権の外

乃者なし人のかは権なし権の外よ学あく学は小

権なし然をの是見よ生熟大小軽重の是をあるの

ものなり故よ聖賢の生言工夫職業乃深事とあらし

ても極至に非ざるを指して学者の準的と示し給ふ

ものなり孟子道性善言必称尭舜云公明儀曰文王我師

也周公豈欺我哉とてその思義をよく〳〵体験

してかくよく弁まるべし君子の準的と心しるしれ学

比続ありしても術者法乃地に執滞して非禮の禮

多くあるべし

佑完曰洪氏曰権者聖人之大用未能立而言権

而言権猶人未能立而欲行鮮不仆矣は権云ふて見る

ひとへだる先生の教筆とこゆる弊あるべしと候ぞ

師の曰は権云ふ権と工夫めあてとまもる所をいふ

まづのしも権乃理味とおなじくて所のそこまでもとなる

人をいましめくるを見あり権は理味とおなじきこるひ

てんのさまとなる人二きわあり一つは狷見はのぞる人

権衡の法はおちらも適はずまとまるゝ面影とかへ付中庸

精微の雅ともふ人を欲の海せくわよふおむ

とますひ法はおちざるを知権の厚しく権を

そむくら得ぞ学ぶ人此んと恐るまよ身これを権の

術修識ひ徹尾ごとく中庸精微の秘理にして

一法におちらも適はあらずまさる八権の景象あることを

聡ど親を得て形しもの僕ありて又一つは八信儒の学をと

ひろくして禮法はまもるゝと権をすりとそなりんとなる

て時中の適當とよりまへを欲んは何て禮法をそむき

きそめんすると不義なりと八まよりぶしかれまる瀰

の儀氣をおへてくしきんよ権の名をかりてのがれんとする巧

ましそのゆへ人を困しめ世を惑しそれをまなぶとかす

人おほかりきしかれ権の名はのがいましめんさあ

よ済民の権を雑揉小利用ひめされうわく

くゆへよくすべし

別行

○佐充曰淳于髡曰男女授受不親禮與孟子曰禮也曰嫂溺則援之以手乎曰嫂溺不援是豺狼也男女授受不親禮也嫂溺援之以手者權也曰今天下溺矣夫子之不援何也曰天下溺援之以道嫂溺援之以手子欲手援天下乎孟子乃此

章を言ふれば権と善事あるべきとなる候きこいで

別行

○師の曰漢儒反經合道為權と此章を見んおや論

[illegible]あり此章は禮と權とを指ていへり禮法は天下萬民日用常行のために平生急務のものなりと云へるものなれば聖人といへども禮法を違たまはず是大事に充満して有をとられざるものなれどもときとして平生日用は禮法に取あはざる事ありて聖賢は常に變することあるも義をもあり權までは此は權者なる故に禮法をもて權一なれ共是は援樣にて迹おもふにやて權と名けがらはしき事に法しなづけあり嫂溺は非常の變にして此道をさとし禮法あげまで嫂溺援之以手者權也とぞくして權なりといふ權といふは權衡の名なれば權もちあるがたは道あるてもの[illegible]權

也といふなり此章男女授受不親禮也嫂溺援之以手者權也とおもへば反經合道なれば見るやすけれはし權也といふなれども權の字のことをなほざりにおもひ[illegible]是此章は禮と權との辨をおろそかにおもふ儒者は法にあらずと[illegible]上天時に律り下水土に襲て[illegible]に止まることを用ひずといふものあり[illegible]孟子の[illegible]禮を[illegible]つくしめされざるべし見て[illegible]の富貴の[illegible]人あるを思ふにまかせ嫂溺の[illegible]法をみ[illegible]孟子を[illegible]にして[illegible]權をわきまへずして拘泥せずして[illegible]

塗炭也なうくとおしめてそのまへにひとをとられんやう
道ふしるへもしてはいにめされたり孝經曰夫
孝天之經也地之義也民之行也天地之經而民是則之
とあれば經も權もおなじく天の德たれども經と
權と名のかはるは不易なる禮法を經といひ
あるといへども時にあたりてかはる禮法を權と云
又ながしの時にあらざれば權道にあらず
權なりと時中にかなふ事をしらずして權を以て説き
他の禮に背き孝經の道と思はざること
に權なし禮は名を發するにも能あれば寔
に一理なりとしく取捨あるべし

翁問道 卷四終 下巻之末

翁問答 4 卷五（原本、下巻之末之末）6

末

三行分たん

別行

儒先問曰神信仰へと八信するがよくや
と信仰ある八儒者此に有るとて承り
配し又と上帝に配し神明にあがむると孝經にて主極
なりと孝經に説きまつり周禮曰大宗伯之職掌建
邦之天神人鬼地示之禮以佐王建保邦國以吉禮事邦
國之鬼神示以禋祀祀昊天上帝以實柴祀日月星辰以
槱燎祀司中司命飌師雨師以血祭祭社稷五祀五嶽以貍
沈祭山林川澤以疈辜祭四方百物又曰若大師則帥有司
而立軍社奉主車若軍將有事則與祭有司將事于四
望又曰凡師甸用牲于社宗則為位類造上帝封于大神

潔浄他なることなくおこしめてそのまゝひとしく立てん道にしたがひてもとをしてよく権也と論じたまへり孝経曰夫孝天之経也地之義也民之行也天地之経而民是則之とおほせられき経も権をおこなふ所の根本なれば経と権と分たるにあらず不可分の道法を権といふ分ありといへどもありのまゝなれば経法也世俗の権は経を離るゝ言又なきにあらず時中にかなひて用ゆれば礼法にかなふ権なりの時中にかなひて用ゆれども権にあらずき般経は礼とあらはれて畢竟経の外に権なし権の外に経なし権と経と名義異なれども其実は一理なりよくよく玩味あるべし

翁問答下巻五畢

翁問答下巻之末

体充問曰神位伝とハいかなることにや

師の曰神明を信仰する八儒道の本意にて祖を天に配し父を上帝に配し神明に事ふるを孝の至極なりと孝経に説きたまへり周礼曰大宗伯之職掌建邦之天神人鬼地示之禮以佐王建保邦国以吉禮事邦国之鬼神示以禋祀祀昊天上帝以実柴祀日月星辰以槱燎祀司中司命飌師雨師以血祭祭社稷五祀五嶽以貍沈祭山林川沢以疈辜祭四方百物又曰若大師則帥有司而立軍社奉主車若軍将有事則与祭有司将事于四望又曰凡師甸用牲于社宗則為位類造上帝封于大神

祭丘乎山川亦如之祭法曰燔柴於泰壇祭天也瘞埋於泰折祭地也用騂犢埋少牢於泰昭祭時也相近於坎壇祭寒暑也王宮祭日也夜明祭月也幽宗祭星也雩宗祭水旱也四坎壇祭四方也山林川谷丘陵能出雲為風雨見怪物皆曰神有天下者祭百神諸侯在其地則祭之亡其地則不祭王為群姓立社曰大社王自為立社曰王社諸侯為百姓立社曰國社諸侯自為立社曰侯社大夫以下成群立社曰置社王為群姓立七祀曰司命曰中霤曰國門曰國行曰泰厲曰戶曰竈王自為立七祀諸侯為國立五祀曰司命曰中霤曰國門曰國行曰公厲諸侯自為立五祀大夫立三祀曰族厲曰門曰行適士立二祀曰門曰行庶士庶人立一祀或立戶或立竈夫聖王之制祭祀也法施於民則祀之以死勤事則祀之以勞定國則祀之能禦大菑則祀之能捍大患則祀之及夫日月星辰民所瞻仰也山林川谷丘陵民所取材用也非此族也不在祀典論語曰祭如神在。此上乃聖賢をよく考て傳教する神明を信仰すいもるをゆるへし。禮ハ邪神は信をすまつる大法あり先祖の鬼神を祭るも外なり日本の神社の禮法より傳る祭祀の禮はおもひならひて。されば三社の神託の奥義傳者は神明は信をまつるんとあらはる尭ひぬまで七約八百禮に紊聞ありと説まりとは意義ありきえそ神明につまりまつるうきそれ信せ

かくて絶法あれども其の国の風俗をおしうつし天孫の降臨
の禮を教へあらせて久しく斎戒して儀式も又さかゆる誠よ
第一なりきるに佛者ハ神明を信仰すると詐術雑説
ととのひ佛を六世神をも又世をまどはし其の外ハ捏作なるを以て
孔丘同日先生の教を主張し候て儒者の道理の主張して
そのをとゝむる事まことの本ハ人道を先こゝにまもるぞかし
をねるまで候へども日本の風俗おしくは聞ゆるにや
だにくてりんともいかんぞ師の曰これまでの道たる事
是をもまきて人をも儒教の経法にて日本天地の事を
とゆるんまるあやまりなりおふ来儒者ハ太古の神代のことを
ねよ世界の内舟車の至る所人力の通ずるところ天の覆ふ

ところ地の載するところ日月の照らすところ霜露の墜るところ凡そ血氣
ある者の尊び親しまざるなしとかへて儒者のあやまりなりといふ事を
知し儒者よのもとの禮儀絶法ありと雖も天下に
聖人なきにあらずそのまゝ天地のはじめより儒者
なのもとの禮儀絶法ありて大方周の代の制作なり式禮
儀絶法ともにちかへども今日に至りて信ずる事の
かれおこなふも久しく成りてもみな人の取りおこなひ
あまりにそれもまのあたりによりそれおこなひ
たまひきなかさんざり大唐にてすれあやまりを
なしもとりても據道をもとめて異をあらためて理を
且伏羲より周の代まで代々の聖人制作して次第に禮

義作法も代々にまさりておごりて中庸の儒法なれ
ば代をかさね時はいかでか太過不及の弊ありて損益
ありてそのよろしきをはかり万世通用の定法を
たてらし前の代のしげきを省きて禮義作法を時によ
ろしくはからひてこそかはれども一代の禮法
はかはらずとも修飾の作法にして大にかはるなり殷の
代にいたり夏の代の禮義作法をおぎなひて損益し周
の代にいたりても殷の代の損益作法をおぎなひて損益
しあまりに過てとくあるべし相承して損益を用ひ
てまさ世のぞればひいやまりてそのひとりのおり傳法の
まうゐの禮義作法をとうしてらぐれど禮は取あつめ

これにく儒者をおこなふことまもるにてあやまりまし
異なきひ傳法よりの禮法とまさりもちまた
儒者にもおこなふ大かたになき事かはり也
と位といふ過当恰好の儒法にありたばば儒者とおこなふ
ありとも異端ありその行ひに時に時を適当
しても其の人は利の為にかはる世のの小人といひ
まで君子は儒に於ても其ふるまひの行にもろも儒者
にりの事の禮義作法にちぎりてもその行は中庸に
天理にあたりその人の性の聖賢の心法にかなひぬ
だに儒者といふ君子ありかくのごとく禮義作法にたか
ますます聖賢の儒者とおこなふにまるべし国家にそもおこな

ひがごとなきやうのあらはれ事也 素夷狄行乎夷狄乃字 夷狄ニ素ス
患難乃字 患難ニ素ス 君子無入而不自得焉 といふくだりの意
なり ◎作光曰さやうに実に儒者をおこなひ
給ふ工夫はいかやうに仕つりてよくはや ◎師乃曰 其の云く
夫はその主人自満の浮氣名利乃欲心をさして聞思雑
念慮のあらそひのぞき心源を湧し 金春乃心法
を変通するを指ばすとしてそれ世間のすなはち禮義
絶法を主として其の所の風俗をむねとし行ふを主角
なく周にまじはり物ごとに和にして心も絶法をやくしく
謹慎を守りてそれも人にまさんとおごそか
なく孝悌忠信乃道を根にへてつとめあるなり

親には孝乃道をつくし君には忠之あるをなしてつかへ
しもとや信ある人年老たる人には(?)よ
くうやまひをなすこゝろは実にもしく義理を守て兄弟
乃間はともに友愛とおこなひ妻子には義慈とかぎり
こそ差しかくの心よくよくおこなふと儒者とおこなふと
いふなりかなおこなひてみるにある程世界の
うちまであるまじくはよくよく会得しても(?)とめおこ
なはるべきる事也 ◎作光曰さやうに候今時の儒
よみ坊主衆はたぞうりておのれのまねをしてもる理
よかるひはらうことにてや ◎師の曰俗儒の絶法を
無案内なれども何をらして学に及ぶて定て日本にて

の儀式をとゝのへてハかなふ。それ子細あつてこそのゆゑなり

されバ上古の尚書にて徴すれども中庸の神理にかなふかな

ひとへまでかミをそりてもくるしからざる泰伯ハ孝行の

すゝめに髪を断ち身を文しましましけると孔子

泰伯其可謂至徳也已矣と嘆美したまふことを断

ち身を文しましますをあたまふにおもへバその孝徳

十分になしてもそのおこなひましますハ高理中庸に

かなひたまふとおもひたまふなり此意を志ざるものや

泰伯の孝徳をおもへ中庸にかなふ為き義理をなくて

かミをそりても剃髪せバ泰伯の断髪とおなじく

ありとおもふる人ありこれハ舟に刻て剣をもとむるの類

おもへバ烏を鷺といふまでハいへど俗人なるべし仁

義の守なくまさに何ありてもむなしきものなくてかへりて甚

身をも文して先まかふも氣ちがひと云もみなうそ

人に利欲ふかく知りとむさぼりしめ座敷かたちまかと

らんためまかゝとそりて中庸の神理にそむくものとハ

欲心の小人とやいはんまた坊主とやいはんまし其

ゆゑなそりたるこゝろなりをりて吟味して口見其心

実志れぬものありしのきとそらしところの根本道在

のさめの何のためぞと考へそ評判あるべし只それうハ

停しれたるすぐなりて心味評判するにまよふつかれ凡夫の乳さ

さなりまれのこまあるぞ何事の評判てしも其心根

て吟味せざれど是非のあやまりおほく[illegible]なりこれに付

て[illegible]もろこしへ[illegible]むかし大唐に盗

跖と云ぬすびとあり同類数千人を従へ

将軍と号しあまたの里を[illegible]人を殺

すをわざとなしけれどもその武勇すぐれて比類なければ

も名大将もおそれ[illegible]もなくして大盗とよびて恐しに

く[illegible]あり孔[illegible]盗跖[illegible]これ[illegible]

[illegible]剛強[illegible]のかれを武備[illegible]まへ[illegible]

ぬすびと[illegible]ば八名大将

武備者[illegible]おそるまじ[illegible]これ根ね

[illegible]みなかしこまり[illegible]盗賊と云なり事

旨[illegible]みだりにしらく作[illegible]の是し　〇作亮曰書寫

は儒者よりは八名利の欲とするが第一は工夫あり也

好候[illegible]欲なき[illegible]ある[illegible]もてさゝふる

まうて候べくとも欲をすてて世の中のまじはり成やまし

きくなればいで　別行　禅の日それより仏氏備[illegible]の教の欲

[illegible]天子の位をもて龐居士が家財を[illegible]しことを

無欲なりと云ど[illegible]ひそかにあやまる教なり儒者は

[illegible]そのやうの事もしをなくして位をもて銭寳をとつるを

こそ[illegible]ひれ欲[illegible]きことして大きにいへり位にあり

ある[illegible]欲しし位をもはつると無欲とし銭寳をもたぬ

ね[illegible]と欲せし銭寳をもつると無欲なりとおりふしまゝ

増長して。位とこれ財宝と貪心のふかくして邪諂凝滞して彼利揀択は拙おろかなり。聖人は是背謙遜して意必固我の私をまもりて富貴貧賤死生禍福その外天下の万の大小高下清濁美好悉くおのれをも我が揀択の情なく已に満腔遍周一変是揀は非理ぞうりなりと云る程は位小のかるきとも財宝とたくはふるとも欲しもせず。また無欲しもせず位とまて財宝とまゐるとも無欲しもせず。ますます欲ともせず是天の非理なるもくと欲し。是ともに天乃非理よかるふと無欲し無欲あもと非理よるがひぬ是ば天子は位よのかるも財宝と多くてあるも

ともかくも財宝ともつも無欲なり。無欲なれ非理に近しさぬまでし天子は位とまもるもつるも位のかるも財宝を蓄ふるも皆欲なり。無欲是欲し無欲とあると無欲もあこなるはあくむさぼりそのん招にあるのみなれども我儘なりなりは無欲なりめる招するものは欲なりとしるそて指きしむすふますまうひ為る凡夫のんの心。ますます黒偏僻の法をわ執着するになんとさとりめされんへ只文を擅持するも善し寂光土としにて天子は位と摩尼珠の位とし袞衣玉と麻衣草座せし禮楽刑政を説法として衲衣済度の方ぞきにますといよひ山に入袞衣玉冕とい

詩別行
組方
二二

しくひぬ麻衣弟子に坐さうとのとめされける老衛毎らんや
や良背敵無不相与に紀ずるまゝ文帝位何ぞ是
きうさんや山中の静坐何ぞ夢どきさんや衰衣玉闕
何ぞ我を救さんや麻衣弟子の坐何ぞ夢といさごにしく
せんや王氏詩曰曾見巣由渡始知堯舜深又君臣之際
又翁茅屋如喬林氏詩良背敵無不相与之意味を説
妙まに何の一点もなし堯舜の禅授湯武の放伐ふ心
の誤りはこなふところあるべきにあれかくも何迄そ
乃ち私欲なく潔静精微の非理明了にしてその
時中の天理にかなふと無欲となし天理をもつとすひと
ころの義理にありても私心に欲あれば私欲にあり

むしてかみに欲ありては私ある義理にありといさるまじ
欲ともりのなきやうれしく私に欲なく潔静精微の非理
明浄にしてそのふ時中の天理にかなふらぬまずし帝堯
の天下を舜にゆづりたまひしも帝舜の天下をうたま
ひまうしも皆まさ湯王の桀を放ちまひしも武王の紂を伐ち
て天下を救ひたまひしも皆無欲の清白なりしゆゑ
舜湯武は欲心なくおこなひたまひて清貪欲の
ありなり天下の授受放伐をしむる廣大なる事なる
事なれば聖人ならでは一機と人にあひ一機と人
まうくるを仏んまちまうしまうし億萬の心法は
良背敵無不相与の辞を衛としたる段は天子もまた

下庶人にいたるまで多くは[illegible]の[illegible]ひとへにたゞ財寶をむさぼることを欲とのみいひて一銭にても義理にそむきそこなひてたくはへ置みれども[illegible]おしくきなることを欲として此欲をもつことをやめられるゆへ世の中は倹約のさたなることなく学問せぬ人とも付合六欲のありとは是も不義はすくなくおもしろいことのありてのなりまして心学に志ある人とや利欲は財欲と形氣の欲とはあるまじき財欲は金銀銭寳を沢山にほしきとおもひ名を多く求め[illegible]とむさぼるを也此欲をおそれやめられりのありて形氣の欲は酒食に溺れりおもひ是又色形の[illegible]利手を求むる[illegible]あり此欲をいとふ[illegible]かくのごとくなる事をもつて欲をもつ工夫[illegible]心の一念男にまゐり精密して明らかに見はらへば此工夫[illegible]得と云なりよくよく省察あるべし

仲[illegible]曰先生乃ち教を守居のへで利欲をはなれて[illegible]職易くおのづから名は欲をもつて世間は邪見をなすゆへともありそうなく氣勢ありて作法をしらぬと[illegible]名は欲を利欲にて[illegible]一

師の曰よく[illegible]位ましてはこれよりは細にて名をされむすれば銭寳をむさぼるを命とおもひますます利欲をもとめ名を[illegible]功名は出世と[illegible]中は位と[illegible]より性命は学に志なく義理をもつて不守ずの人も[illegible]めて名は欲あ

果く利欲乃為なるべし其儒は性命の学に志なく
義理を守らず只人外面を飾とも、ありもせねどこれを妙氣
清まなびて作法あしく其心潔き人も亡者の風に合
の心きよき人は市井の風に入ぬべし此吟味あるべきなり
然るを志ざれども、ことも出来れども心学に志なき凡夫の上の吟
味なり心学に志ねがふ上乃吟味はまたく各別なり
夫名ハ実乃賓なりと云て心に思ひ身におこなふ
実あればこそ名あるまゝ是なりとへば實ハ主
なり名ハ客なり善をおもひ善をおこなへバ善乃名あ
堯舜孔孟などハ是なり悪をおもひ悪をおこなへバ
悪の名あり桀紂盗跖などハ是なり善とこれも悪と

またもる人心秉彝の本然の性に善名をはなれたり
とび悪名と云ふも今古の聞なり志ある
おもハれ所あせ付いさぎよき丈夫なるをも名をとくおもハれ嫌
疑とんるをこれありもん根善とこれを悪をにくむ
秉彝の本然にもちかくして利欲に遠ざかれて至て難き凡
よりしらずしかれ共一位にあまりあまれ共至明の
むぞ妄あ本来のしらずまに迷ふも風俗乃おやまりま
おみひまりをも或本末をもとく末をもとし或き玄を
うむて妄をとも般にその根乃枝ぶ善とこれを悪
とふむ秉彝乃本性に似たれ共却ぞんとくらは
性の命をそこなふ人欲乃まよひとなりて利欲に為乃

欲とともに清濁の重ありといへども天性をそこなひぬるものは不孝莫太の罪におちいるなり。しかし重き禍によりて名と利の欲を半分にへらして、かたちをつゝしみありぎそ名の誉に甚しき不忠不孝の悪名あることをよくこゝろえ侍るべきなれば名の欲をまもらんとおもふ志ありても工夫なければかうし聖賢君子英雄孝子忠臣の名の誉をうけずして誉をも義理にかなひするを天理の至真至実の名と云なり。異端曲学の名の誉その外一切の誉をも義理にかなはざるを浮俗妖妄の名と云て君子のいみきらふ所なり。妖妄の名をこのむ心あるをもやまひとして真実の名をこのむ心もよくしるべし

れば生まれつきて人不知而不慍乃位にいたりぬべし。聖賢君子英雄孝子忠臣の名誉その外一切すべて名の誉理にかなひたるあはれなるは皆本と家となりその名誉の根本と称しそのかなめの誠となり聖賢の心にかなひたることを聖賢の誠を身にあらはさんとして聖賢のかなはれむとのみ願ひて求めんには孝行なく身には孝行をおこなはずして孝行の誉をとりむとするはきらへて形なき影をとりむとするがごとく、獼猴の水の月をとらむに似たり。上一人より下万民にいたる迄、連城の珠にも増りて王公の位よりもかへがたき名誉の真実なることよくしるべし。世間凡夫の理をかなはざる俗儒の名をこのむ心と

とゝ婦ひしぬむることゞもとくろしめて楚之荘女の寵愛をもとめて織紀し給ふことゞこれ乃ぬるまじきひ無下に浅ましき女の欲とまつるはなしむしせひ妄言の念とめちさるべしかくのごとく修像佛説して名乃欲とまつるに猥邪天理の真気をとりしめ氣誠とまそれ修法と云くせんためなりけん学に志あるも乃そ名をもつるなれど氣性がおごりきて作法よくありて俗風すもいうず市井の風もいうど君子中庸の風よみて君子はまれずしてめぐりのなり名利の欲独渡と人間思雑道と一念の微ま着家して猥とはてのぞきすること第一の要法なり

列女伝曰楚女乃寵愛をもとめて織紀しなからも云てもひ何とぞ思ひしはりしや

師の曰然れハ富云れ故也もし大唐楚之女ハ王おしれ侍ハ婦人女を寵愛なしれど桀紂の乃妺喜といふ女楚王れあやひつき給ふまじきうすとなりしび含桀をくそまゝして必ず世ゑあらむ腸のほそくなることゝく断含してか川え死しさうと云ことあり世間の名をこれまで参をとりしむろへとゐるその時代乃天子諸侯のことなまふるの世俗のはじめそれそんやもとうすれば是非もなれふびなくその時ふねん鏡なる極よんなとりち文をとうして云をと巧して義をて紀まへも一向よ世人の参れをとりしめて徳性乃貴を守らしめて

混沌乃死まるゝすとこゝろへて恰も楚女の霧髪をもと
めて鑿死しあやうする級よ寓云ハなるすとりて喩ふ
且ん学よ志ある人ハゆるがせに撤しべきにあらずかり　○仲宣曰
習深心しらざいうかるかれんとかりや　候
○沛の日習深心と
き生下てこゝろこれらを見あれ安あれておりかぎまし
まことよおもくおやうりたまりゐあらんあり申しくだし水
ますて熱をとけだこゝろ変も凝まるをとけだその又
くれるかおとし中寒水ハ冬よりて寒もまたもたゆるれ是紫と
凝るとくよまたりゐあやうりてかられだもしてはよく　本
来人心よ始めのるハ空まてなゆるれ是その中まるぞり　多
その風俗その家ハ風俗一面俗よあやうりそまりてぬ　悪

乃及空気をまがゝるまたり学問義能よりも楊ん中下
生んけんの継承とて本之きれよよく揚ん冷体
しそかろまる　べ　熱をえ文利とあらよ変じあるる水をと
まのあふりましてこゝろ奥れんれ水をこそもふらんとたまじ
しきまうしねまでし生れ下之流て水のせをよおゆるく
やよくへまよや仲殊多あよは　○仲宣日間思難逃
よしさゝろやそしなりんく会あまうすそめたりくゐや　候
○沛の日さし
とりる逃入会てよおくざれ是思ひて益あく　ちまきもしあまりる
とぐろりゆしくろり五しもふ思ゝ常て天実ハ王ともしくひとあるを
間思しらぬかり通るす揚推の隠よ言ハおうるを分お
思つき過まる時よ工まする一あしもと他の会是とりませあるり　還

は感應のさいはひあることを勸善しるあり此二つをかろき
病として却て克治しがたし是をもつてよく肖家なるべし
別行　又は同日仙術を学ぶ人も長生不死乃道あり佛乃
修行する人も成佛得脱乃道ありとし（承）後は儒道を
学びてを（遅）さまたげ別後乃益をゆるかせにするや（経）
別行　儒乃目をさまし乃教を墨縛の説と学ぶおやくしてなるべく
しるべし（経）孝經易經などよく噛ねまでも生前死後にと
もなる学と指ずしてかなふれどもかの識備にのみかねさ
とあり是ればとて時の人もあまり此疑（疑）おれども必ず
く仙佛のみにかなふれどもひたすらに心得べし仙家
ハ長生不死乃術も佛家の成佛得脱の修行も（旨）

畢竟是一心乃工夫なり仙家にハ修心煉性と宗旨中
を佛家にハ明心見性を宗旨とす是工夫乃十分成就
熟せる所の名性と長生不死と云成佛得脱と云なり二
氏ともに元氣の具足せんことを經ハ端的として元神の
妙理とさとりしゆゑあらざるよりての見性成佛の中の君
みより一陰下をより儒家にも一人の工夫ありて元神の
神無の性の端的とし窮理盡性至命をもつて宗旨とす
工夫十分成就すれば人乃心性と聖神至誠無息と云
其の宗旨は端的も明徳大悟の心性を仙佛に於ても一陰海
しるべしあれども長生不死と指ところの義を成佛得脱
と指ところの義も一陰なりしかるを義何事と紛無し

性理會通曰易曰保合大和乃利貞所謂大和者乃所也生物之本天地之根一團真理空氣充塞雷而無窮歷浩劫而無致敬則衆生造化三才萬象攝三才沖漠絪縕歸和純粹者能保此氣而不失合此理而不違与同大道渺点而之満海灌淪溟而共存人契天真冥契尼雲之没宗攬太虚而包六合無而無滞凝真固而無變遷故天地勝而壽不竟日月晦而明不断故曰至誠無息無息則久久則徴徴則悠遠至保大和者誠乃之至妙至矣五有也守之者遷之曰性即理也命即氣也人之性天地之理也人之命天地之氣也謂能以性合天地之理以命合天地之氣謂天地之理同性也天地之氣同命也理氣無壊此性命亦無淪壊譬如水於盂何可竭焉火于木何可滅性其大遠而超小物故不以天地之成毀而成敗獲大身而忘小我故不以軀殻之存亡而存亡謂之氣謂之性亦何同矣謂之性淪與此中大有春紫陽春融融如宇泰既利且貞活潑之地郎易之黄中無理正位居体美在其中暢于四肢発于事業無之至也此乃儒教中不死之神方也玄之術不寄与身而寂而坐者禅之參而希昇舉者因目而語也この賢聖をもつて仙家玩味して儒家乃聖神を体無息の位とハ仙佛乃修しのみなそ積してもひとね凡おのづからとるへく深くかくしたまし人達し保合大和すへん法と爲よりうかむへし

きすなはち全孝の心法あり　○體充曰全孝の心法
とくしいかやうなる法にんや　○師の曰孝經曰夫
孝天之經也地之義也民之行也天地之經而民是則之又
曰天地之性人爲貴人之行莫大於孝孝莫大於嚴父嚴
父莫大於配天又曰孝悌之至通於神明光於四海無所不
通詩曰自西自東自南自北無思不服曾子曰夫孝置之
而塞乎天地溥之而橫乎四海施諸後世而無朝夕推而
放諸東海而準推而放諸西海而準推而放諸南海而
準推而放諸北海而準詩曰自西自東自南自北無思
不服此之謂也又曰衆之本教曰孝其行曰養養可能也
敬爲難敬可能也安爲難安可能也卒爲難父母既沒愼
行其身不遺父母惡名可謂能終矣仁者仁此者也禮者履
此者也義者宜此者也信者信此者也強者強此者也樂者
自順此生刑自反此作孟子曰仁之實事親是也義之實
從兄是也智之實知斯二者弗去是也禮之實節文
斯二者是也樂之實樂斯二者樂則生矣生則惡可已也
惡可已則不知足之蹈之手之舞之禮記曰仁人不過乎
物孝子不過乎物是故仁人之事親也如事天事天如事
親是故孝子成身　以上の聖經模範としるし熟讀し
て孝德の教功甚實廣大なる事をきはむべし無對小
して孝のみを名とし淺く居して其ゆへを明かすべし
おもひをおこなふ所にしていふとも孝德の天眞まきし

きぬまでも天威乃ゆるさゞるところ君子はいろとむべき所なり されば孝経に不愛其親而愛他人者謂之悖徳不敬其親而敬他人者謂之悖禮と戒給へり か くのごとくなる孝道全体の天真とゆるまる工夫と全孝は心法といふなり 全孝は心法その廣大なる明なること神明にかよひ六合にみつるといへども端とするところ乃性質る身をはなれずして其身をおこなふ 本は明徳にあり 明徳を明にするは其元を謹して独を慎むにあり 良知とする赤子孩提の時よりその親を愛敬する天稟一念と根ざして善悪の気分をなさ悟とこ実に兼まへる德性の知といふこれ良知なり 磨而不磷涅而不緇の具明なれバいかなる愚痴不肖乃凡夫にも明にあるものなり さる後には良知と工夫は積ミ[illegible]しても工夫とするなり 大学の致知格物の工夫こまかなる利独を慎むとき一念乃をこりおこる時に良知を[illegible]としよく省察吟味して名利の欲[illegible]閑思雑念をとな[illegible]と云邪念おこる心を我おやの力とぞこなひ損ずる孝の罪念を知りて迷ふとして六極莫[illegible]兄貴[illegible]明よりしておのづと刑莫大肉刑と父母を磨んなりとおそるべ情火[illegible]に克去りて神明に通する孝道の徳を[illegible]其工夫とするなり 一念の悪を去ても親の力となるこの心を[illegible]ふるさ云子綱[illegible]孝経曰身体髪膚受之父母不敢毀傷孝之始

世この聖賢の人を教るにまつそのさとりやすきをもて人ことに性を
身体も毛髪も皆親の人性身体も髪を受るものなれば
遺しし身体髪膚も其自身体髪膚にあらず親の
身体髪膚なり。身体髪膚是を毀傷する人は性をも亂ん
性よりあしく又父母の人性なり。孝の後に我身体髪膚とを
そこなひやぶるを即父母の身体髪膚をそこなひやぶる
なり。故に徳性にそこなひやぶられば父母の徳性をそう
そこなひやぶることのなりし身体髪膚を全ふして至く
徳性をそこなひて表ものなりハ寧に父の身体髪膚とそこ
なひやぶるは大悪逆大凶徒なり身体髪膚をそこ
孝天地善の徳性をそこなひやぶるハ大悪逆大凶

徳なり此理と吟味あるべし。身体髪膚受之父母不敢毀傷孝之
孝徳と受用する始なりと教へ給ふなり。此聖賢を
まつ身体髪膚の欲利の煩ひ間思雑慮をなし此
念を充もそのして此徳性をそこなはずと即父
母此徳性とそこなひやぶらざるのなり孝経に詩経の
毛詩に無念爾祖聿修厥徳と云る詩を引て證さるる
も此意を示し給ひしにあらずやまつ身体髪膚あらずし
身體髪膚とそこなひやぶらざるが孝行をそ
此旅にて軍陣にそのことを被物りうち死をるを不
孝なりけんや
師の曰それ大なる人の事をいふ
ひろく不義無道なる事をしてそこなひやぶるか。不孝

なりと云義なり孝経に身体髪膚受之父母不敢毀傷孝之始也と示しあまた此毀傷を血肉の身体髪膚をそこなひやぶることはあしきと孝徳をそこなふ故なり害仁とのさまにて害は字の意なるも血肉の身体髪膚はしく小はおゝず孝徳の形体乃よあかり仁者人也とのたまふ人は字の意形色天性也惟聖人然後可以踐形と発明めされたる形色は字乃意なるは聖賢模範なる人間乃身体髪膚を本来天性仁孝の激發なりとを示し毋まもりの孝道を示したまふ身体髪膚こゝなるの天性仁孝の為とも徳なれ身にならずなることはまもりし血肉の身体髪膚ともしそこなひ破ぶりていふことを不孝にあらば孝の本且血肉の身体髪膚をそこなひ破ぶりしとても天性仁孝の身体髪膚をそこなひやぶらざる役なり殺身成仁とのたまふは此意なり天性仁孝の為とならば身をもらず身はあてゝをなさずして忠遊なりとはそれこそなひ身を全して毛一すぢもそこなひやぶらじとのみするも孝りとおもへば不孝なり血肉の身体髪膚をそこなひ破ぶらずとても天性仁孝の身体髪膚をそこなひ破ぶる役なり曾子曰戰陣無勇非孝也は此義の意なる軍陣戦場にて武勇をあらはすきはきをとして軍功をなしもしくは疵を被なり討死するも孝なり

り若武勇をあげずして軍功をたてざるとも雖臆病の悪名をとりきをもとしし不孝なりといはしめゆるされたり陳明卿曰若夫曾子之言即謂比之身首分裂与啓手啓足一般不然則楽死牖下亦与刀鋸僇辱何異これも論じたまへり曾子臨終のときに門弟子を呼て啓予手啓予足と云て詩を引て不敢毀傷の心法を示しめされたるによくも記とり曾子は父母の血肉の身体髪膚をそこなひ給はざるとりて天性仁孝の身体髪膚をうしなひ給はざるほどおしめされたるに孝経の聖賢のをしへたるを章句の儒者曾子は刎首をはしらずして只血肉の身体髪膚をそこなひ給はざることなりと嫌説するゆゑに陳氏此書のありし武諸の言は全孝の心法をよく武勇をきれど龍逢比干の諫て害にあはされて身体髪膚をやぶりやかり身首分裂しゆゑありとも曾子の手足を啓て一毛をもそこなひ給はざることを示しゆるされたるとおなじ孝行なりとしまうさ全孝の心法とよく武勇せざる人の八十九十まで年をへて家室のうちにて病死して毛一すじもそこなはずとも刀にそこなはれ鋸にてひかれねらひ刑戮におよびけるとおなじく不孝なりと云義なりよく体認あるべし

別行

体元同曰全孝の心法をよく武勇行候ば良将献忠の

聖域にもいたりなんや候は

○師の曰心学は元来聖人の道みちなれバ全孝の心法ぐまなちち艮背敵応の心法なり私意をかざりて妄をおさへ殺し存理ありこれを坐禅工夫と云なり心法の端的は同一なれバ受用またゝ人に善信愚大聖神人の差別ありとしんふず又よく心法は大路なり受用は其人に随ゆく人あり路をさへ人に貴賤老若男女ともに不違なれバ狭路あれども路をもなし大路なれバ全孝の心法とおりて受用して切にしあれどもひろく祥胖に廣大高明精微中庸の神理を服膺して人の子となりては孝に止り人の臣となりては忠に止り人の親となりては慈に止り人の君となりては仁に止り人の兄となりては恵に止り人の弟となりては恭に止り人の朋友となりては信に止る富貴に素しては富貴を行ひ貧賤に素しては貧賤を行ひ夷狄に素しては夷狄を行ひ患難に素しては患難を行ひ境遇に意必の累なくして水のながるゝがごとく心の安く静なる事山の定まるがごとく暴君汚吏も志を奪ことあたはず天変地妖も心をうごかすことあたはざる所なりまさに聖胎純熟の時凡胎脱胎神化して聖神の位に至るべきなり天地とともに流ると世日月とともに明なると四時

と其序と其鬼神とその吉凶を合て声教に光被し天下に揖譲のこゝろなく南面の位にありてハ帝堯の義をなすり北面の位にありてハ帝舜の臣たるや位をゆづりして下にありてハ玄徳王の為なり孔子曰夫聖人之徳又何以加於孝乎

翁問答巻五終

寛永六己丑五月吉日

柳の馬場通二条下ル町
吉野屋権兵衛板

翁問答巻六（原本、翁問答 下 丙戌 冬）

以下六巻

○魯国の君荘子にあふて曰魯国にハ儒者おほくして先生の道を学ものすくなし荘子曰魯にハ少き儒者甚すくなし君おもハくにまかせて多しとのたまふ魯公の曰魯国の人みな儒服をきたり何をすくなしといふぞや荘子曰儒服きた儒者の装束なり仁義をしる儒者の道なり装束ハ誰もきらるべけれど儒服をきてする人もまことに仁義の心あれ儒者にあらず只儒服をきてする凡夫なり仁義をしる君子なるその受用もの道なれバたとひ夷国の装束をきるとも人のまことに仁義の心あるハ凡夫をはなれて夷

と其序と合せ鬼神と其吉凶と合せ四表に光被し上下よ格る故よ南面の位よありてハ帝堯乃君たるなり北面乃位よありてハ帝舜乃臣たる也位をゆづりて下にありてハ玄徳素王なり孔子曰夫聖人之徳又何以加於孝乎

翁問答巻五　終

寳永六己丑五月吉日

柳馬場通二条下ル町

吉野屋権兵衛板

以下分略

翁問答下　丙戌冬

魯國乃君荘子ふむかって曰魯國ふハ儒者多しされど先生乃道を学ぶものすくなし荘子曰魯に儒者甚すくなし君あやまりて多しと乃たまふ魯公乃曰魯國乃人ミな儒服をきたり儒をすくなしといひしハいかんや荘子曰儒服ハ儒者乃装束なり又仁義ハ儒者乃徳なり装束ハ誰もきらるべけれど儒服をきるへまくとも仁義の心なきハ儒者にあらず只儒服をきたる凡夫なり仁義ある君子なれば其の受用もろ法にあれども毎とひ夷國の装束をきたる人なりとも仁義乃心あるハ凡夫とはいはれず夷

教育

國乃装束をこのめる儒者ありしが故に伏犠神農を
儒服をめされども儒道をしらずに似し学ぶ
天下一乃儒者にくましきと魯國の人は儒服をき
るといふとも多く儒道あるまじくあれども儒者
はあるべきをし我とこそいふべし毎は儒道
なくして儒服を着する者をも死罪におこなふべ
きなりと禁制を立て試みんとあまはり魯哀公荘子
乃言を用ひ右のごとく法を下しけりかくて
五日過ぬれども國中に儒服せし者みえず只一人
儒服をきてありけるをめして國事を問ひ
ますに其答千轉萬變して窮まりなかりけり

別行

師曰魯國乃君は儒服といふものをとがめて儒者
とあやまれり今の世なる乃人は儒書をよむ人をとあ
て儒者とあやまれり此のあやまりこそおかしけれど
思ふれば實禅をさずけることはあらずしましひか
り文学なき愚者なれども推あしくまれつきたる
人あるべきを習ひするべくされども文学ある人もまく
も仁義の道なきは儒者にはあらず只文義ある
凡夫なり一文不通の人なりとも仁義乃道明なる
なるは凡夫にあらず文学なき儒者なり此理
なる分明なれども学者のときにあやまり多し
なん只儒書をよむばかりを学問と思ひ文学

かゝる人を儒者とよびてませり此ましひ世人此ある称まさをつくしてるよ有学問を拘りに偏りまるた出家などのまぎさめして士乃まぎらはしけれど也れぎさ海らくなり儒服の儒者よおりさる事をおしゆる荘子乃どと紀人なくて学問の本意世ろにゆかなきぶろ事と天下此大不幸なりべし

体完曰学問乃本意世はゆくろなしぶろをさす天下乃大不幸なりとさいへ

自落此下十三種を書す数多ありて文才をきりの也に乃一段此紛紜に至て丁寧此本也小異大同故に刪之

体完曰名利ふ志て称ある事よく学問をする人乃世の益なれ共なくともなくはさのみ名利乃為なれどもなく道をおもひ称して学問する人乃為には何の益なる儒師なる称なくて修行ありのりなる里ゆゑおはさぶ以て

師乃曰人心乃まゝにして世にめして知何なるもをらなるとも自満乃ある称なるを満れなりこゝ乃満んは明添となゝる海ましひと海称くなせりのよしてまるうのなるまひをも又大々き是よ事あれ里されど易に天道虧盈而益謙地道変盈而

流謙鬼神害盈而福謙人道悪盈而好謙謙尊而光卑而不可踰君子之終也といへり盈は満甚しく己れを是として自負ひ多く弁ずると好ぞ人をかろしめあなどる心なり謙は温恭自卑にして自反し慎と慎み人をうやまふこゝろ人をあなどらずむさと人を殺て善とする法也盈ハ天地鬼神のにくむところあるひ損をあたへて人も又是を悪み謙ハ天地鬼神の保祐したまふにして人も又是をこのむものなり実理を明して后学乃盈をさとし謙を表めん事を示し給ふ聖謨なりされバ人に温恭自卑乃字を以て初学心法の第一義とする也

字乃法を用て満心をのぞき謙をまもらずしてハかならずあしざまなる心乃昧ぐさもありて明徳自らくらくならずかりのなりけり謙にあらずして満心をのぞきされど其学ところ皆満心乃まさしきなり明徳日々に晴くなりぬ如くのごとき乃満心ある也鬼神乃様のなところなる役にまに心あるを漏没を乃よなり心にん人も又是と悪む是と晴処に魔を来らしむて居りでに晴処に魔と来しぬまでに何れもの悪風とこの人をいけぬ出しもなぐぞとは我をこぼさき者なし人をゆるさぬ満た梟にあて歎ありくるのぐうなるとさげしき

放逸とあらざるばかり終めゆるも己れ是として人を非とし我を安んずる是まことにようとして独り居ることゝの我を志すべしさしも紀は氣のふかくるもあるまじく思ふくらかく乃ごとき此人学問せずうりかくるもあまさきおりしてはいかにこゝろを帰すべきかる心がけまでし只何となくそしはなくりゆりを利学者はかくのごとき人なれども学問よりかを帰して放心のためなりあるものとはさしまへどあろうなかるるれまげりしさかされども大禹なき聖人なれども毛鋒乃放心なき事乎にしられを伯益禹を賛けて満招損謙受益とありまして聖人より下ざ後の人まで

一字あげ

別行

あらくしは戒を忘るべからんや周公の才あるとても驕心あるときは取るにたらずとも孔子乃おしへも驕慢乃心乃甚だ害ある事をさとしめ給ふなり學問は志を立るなり人まで学よりなまだする学学の全は魔障を能のぞき稽へ事業第一乃急務なり為利のけがれなく道に志あるとしても安之の凶悪とのぞきなきにあらんや欲を多より安心処よ魔と来りし其後凶悪に落入りのこたふしはこゝろを学問よりさきに付る事浅ましき事なれば戒めも人は能いましむべし

○聖人と愚人と郷の戦ひも兎角軍とあれば右手乃大将

は冉求也管周父御たり樊遅右たりまさに戦
合て魯の左ハ敗軍しぬまさに右をおとさん
とせしに樊遅の謀を用ひ冉求自ら勇を励み斉
の軍と戦ひ甲首八十を得けるゆゑに魯の
勝軍となりぬ後に季康子冉求に問ていはく今
度の軍功おどろくばかりの事なり軍法を学べ
るか但し又生れ付なる器用にやと冉求
答ていはくまなびて候なり孔子
に学び侍りし也季康子是に依て幣をもて
むかへて孔子をむかへ孔子魯へ帰り給ひぬ
師の曰冉求が季氏が大将となりあまれども凶器

功有べからず此軍功なくば孔子の文武兼備り軍法に長じ給ふ事を季氏うかゞひしる事あたはざるべし聖人のいます時さへかくのごとくなれば后世の文武さわけて二つにするあやまりもさのみとがむまじき事にや

○体充曰孔子かくのごとく軍法に長じたまひて衛の靈公に傳へたまはざるはいかゞ

○師の曰兵は凶器なりといへども君子これを用れば天下の乱を定めて凶器却てたからとなれり小人是を用ふれば國をみだり天下にわざわひして凶器ますまし

國書刊行會

凶器となれり然るを霊公小人にして戦伐をこのみ強剛暴逆のいくさをたくましくせんために陳をとはれたり

翁問答巻六終

~~翁問答巻六終~~

國書刊行會

翁問答巻七（原本、翁問答下丁亥春）

問曰今時世の中にて儒者とよばるゝ人を見るに多分ゆかしからぬ人とも徳なれども儒者と云を聞こともまするは儒者の名を辞し世には大名衆あやまりてまなびかざるや

答曰儒者の名は徳にあらずして藝にあらはれたる文学は藝なれども心の覚よくせまほ付ぬれば人を誹るぞよかしき事によらず文学によらず其人にそなはる仁義の徳あるを儒者といふ文学にほこり凡夫なり一文不通の人なりとも仁義の徳明なる人は凡夫にあらず文学あるとも儒者にあらず此理をよく分明にして是非をわかつべき

凶器となれり然るを霊公小人にして戦伐をこのみ強剛暴逆のいくさをたくましくせんために陳をとはれたり

翁問答巻六終

國書刊行會

翁問答下

丁亥

問曰今の世にはやる儒者どもを見るに多分ハ人として徳なくあれども儒者とハもてはやします儒者の名をもつけしく辞世ハ大分あやまりおほしや

答曰総り儒者の名ハ徳にあつかりて文学ハ藝なれバもの覚よく生れ付たる人ハ誰もまなびうべき事なれバ文学に長じたる人にても仁義乃徳なきハ儒者にあらず文学に長じたる凡夫なり一文不通の人なりとも仁義乃徳明なる人ハ凡夫にあらず文学なき儒者なり此理をよく分明にして人をみるべきさき

てしあらん務どもしも何れの時よりかあやまり来りけむ章句を傳へ書を讀むことを学問と思ひ文学ある人を儒者として尊ぶ世となりしより世人の心も是に付移りよりて学問者とさへいへば文字を知るを学びのまさしきと心得古の聖賢の道にはすこしも叶はざるなりまちくなり学問の實義世にあきらかならざれば事天下の大不幸なるべし

問云学問は何なる世よりかくならざる事を天下の大不幸なるといふぞ

答曰学問は明徳を明らかにし止まるを止すとは頭腦と明徳なく我人の形の根本なるより人の人たる心なくて是れども君の是をうけて下ゞへのをしへ方りがたしさすらく人乃思ふにこゝにあらず事もまれて理に背きしひとへに名利のみにゆくゆく親をも親とせず君をも君とせず只我身一向におのれの事をのみ人を損ずる処日々利養を覚ゆる身ひねくれあらそひあらそひ争ふ時も主人の親をも殺を悪逆をなせり人として其者なき明徳のさとくさとる事あたはざる天下の乱其乱をなす明徳乃そつきとすることあらしされはこそ天下の大不幸にあらずやや聖人是を憂へたまひて明徳を明らかにせむ教を立て人の形あるかぎりのそのまゝを学問とし

さ曲へり百出の經書の変る所をこれ見るべり

問曰四書五經の書を悉く廣布して讀りの深く

されども此定義明かならずして世俗の学問
をすゝしむるへしといへり

別行

答曰世俗ハ学問とさへいへハ世俗のあやまりにあらず学問をする人のあやまりなり毎にする学問をする人をそんずるに学問の実義を知て学問に志を立る方をまちがへるより毎ところのよし世に云乃のまなびしき医者の好きりける哉志をたててなんぞ心にゐつを志して学問するよりて学問する義の明徳を明らかにするより事ハ始終いたさず事なれバ心を正しく力をおさむる益なくて文字を言ふ語をとる病ひにおさむ計なりあるいは志書を読むる方あれども紀先覚ハ親切をさへよるて先道の大なる心に至る事をも得ずよ只浅くに生至る法を誤人君子の道を選て道としもするや好格学を善とさせる世する理窟を通て道理とし是をよりて心を正しく身を修むも技術をげむばかりにあらず事活溌融通の心却てまくさりて己心裏に固なる志ハ明徳の寛裕温柔なるく重角目にかさなる事人をよく和睦せずと学もみにたかされがくあれども学問の益といふものなくして文芸ものなりをも世するる人是をすゝめ挫よこれ医者などの身を益のとおりといつぬ法その心ざしあらぬ所ありし世のすの

学者人となりて凡情の習態をあらひきよく学問す一儀乃明徳をあきらかにして孝悌忠信のまことをわきまへ親子の学問せざるをなげき君主臣下乃学術なしをうしなひ学問を怠る学記のことくハ士さ云よむよむハ農人商人にいたるまで学問なくてハかなハぬ事なりとしりてまやまぬなりさあれむ世俗の学問をことそ悪敷よてのくハなり学者のまねく不学なり志られを我も人も学問ふさるゝものゝれく禄りて世俗乃学問をまなふをまなひて武ハ弓馬後を立武ハまつしいハ殺しめてそのおやあり先祖より家業事とするも家業ハ是なり。

とてハ見れども学者の実義に志なきハ学者とハ云べき世俗乃学の讀書をもよむ事をも一こゝろにぬるゝハ然聖門乃つミ人なるべし

問曰一文不通にても仁義も明徳あきらかなる人あるへしとならば聖人以下学問なくして明徳をあきらかにすることもなりやすべきや

答曰それもさやうに文藝を学問とおやまるゝなる習心あるを起す事なり后学乃先覚に志ふかうして性命の道を学び而ふを学問乃実義として文学ハ其の一分なりき大背にかゝりたるも讀べき書を捨なれバ聖人乃言行を手本として学問せしなり世の末に

且学問乃本義をしれる者少なく成りしたがつておるは
まゝよく聖賢志れを憂ひて道をそのまゝに
志おして学問乃境を定め給ひて其まゝ武家
申縞をよむを学問乃詮議と志らず人乃生
付を悔ひて然れども文藝を捨て武勇にして心
法の入る事無下に武勇乃人あるいは心類乃
人は信伝をよまざり又文藝を無下に学
武勇にして心法の事を文武を捨て武勇なる人
あるいはかくのごとき成人に先覚に従ひ聖経
賢伝の講明を受る時は文藝並に武勇なれども
文藝講読をもおぼつかなき事なり然れども心法乃

せんに學者は武勇を軽くする事必聖経賢伝の六
藝主意をよく學ひて其の法をのみとしたり君子
と云ひがたく然れども一文不通にしても上下乃學者
なりといへども然れども文藝は道を求むる登るの奥を
これは答武勇乃ものなり

〇同日大学の道
者上天子より下庶人に至るまでの教なりと定
愚蒙不肖乃匹夫匹婦も書をよむ事をならべ
くもといへども

〇答曰しかり聖人乃治代にはまづ
郷の小里までも学校ありて里乃事務を教え
師道ありて耕作のひまに聖経を講明し道
を教ふ然る故に愚蒙不肖の匹夫匹婦までも

て手習乃半途にてやめ給ふなり文字別ち小
よ通せざれども聖經のまゝに學ぶ學問の実
義をうしなハずして心を正しくし身を修る事ハ
中ゝ末代の俗儒乃及ばざる所なり文字別
ちはよく弁じぬれども心ハ今俗なる行
頑俗にしてさらに是又乃讀書にあらず読ま
し論語にいふ所の論語にはじと以り舌よく文
聞なりとも聖經聖傳をきゝ信仰して
覚ゆる人ハ講釈させこそよく心して
我の法を見るよりも俗儒が書物をよみある
しまし[illegible]書物よりもこれをある

てもんなれど心学をよくはまる織男緒女
ともに海して讀なり今時はやる俗学の書物
を讀でばまさなに見えし　○同日広未の渡
ある書物條別なりもうしらぬれてそこでなりね
事なり善を知れば大なる心のそこにひかなる
聖賢さらで多くをね書物なりて十三經乃注
へ此もじに數百さ多儒氏書七未なるのかおて
まんにく、益なし經書はしとめて讀めるあるさ
なく心づるしおぎて[illegible]なり史書古今の書を[illegible]
者へ独善獨演の事跡よまるゝをのみそれバ雑力
乃なのくさきに讀むそのなりしともすべし

問曰十三経とは何々ぞや　答云孝経論語孟子
周易尚書周礼儀礼詩経礼記左伝穀梁伝公
羊伝爾雅以上十三部を十三経とさだめたり
問云十三経を書数なりて文字おほきものは
こゝろまでにまなぶ事なりがたし其内一二書を
学びて道を志る所紀業を何うしぞや
答云其末易経一部をきはめ十三経
なれども易よく学び求ろかたし経ども易
経は奥玄にして凡常の人は入事かたし
ざされども孝経大学中庸などはさとし易きなり
者学びて人の明徳あらはれて正道

あまたいへども十三経のうちにして其徳なれば
必表にあるべしと云ふと学びて鍛力あらば
これよし修身にして論語を学ぶべし推まゐる
錬力あらば経を皆学ぶべし十三経とされ
学ばずして道なりと思ふも大きな誤りなり
いかにとなれば十三経残らず学び終りて成徳の
人多くありれば十三経備りて后却ての道の人となる
し孝経学庸の外といへども思ふておやまの事
多いことならば時々越く教へ己事をもせざる物
まして皆聖賢の教をしるし書なれども心有は書
不何わき学をもつて事務教の方なれば心をそむ道

しばらく一向に聖人となるべきとの志を励し
違ひをもおこさず自己心裏の明徳を明らかにする益
を求むる為に聖経賢伝をさきとして明徳を明らむる手本とす
三益あり鑿発一つなり栽培二つ也印証三つ也三
益てふ事自己の憤りありて明徳の本体
生体鑿此功を用ひずして憤思ふくよ二六
時中心は養をもとめずしても明徳の益
あるべきんもん為に益あるを書するよみて海
ざれはよろしからず

問曰人の世界にハかなしきもむつかしきものハ何事ぞや
答云心のあんらく極楽なり問曰人の世界にハ何をか
ひ極楽のきはめの苦ハ何事ぞや答云心の苦痛よ
りはなるはなし問いかゞ苦を去て楽を求るなり
うん答云学問なり問いかゞ苦痛と
除く安楽なる理をいふぞ答云元来吾人の
心の本体ハ安楽なるものなり然れども證逆より迷惑よ
り又六根までの心を以て人しく世俗も物事ハ苦
換のきもとりて佛なりなどいふかくのごとく心
の本体安楽ありて苦痛なきの事なり苦痛ハ

次下別行

翁問答　巻八（原本、翁問答　上　丁表　欠）

4　6

くしたまふ一向に聖人となるべき志を勵まし遂ひ〳〵まで自己心裏の明徳を明にする益を求むるにしく聖經賢傳をよく心の徳をあきらむる三益あり鶴發一つなり栽培二世市下似三世して三益あることは自己の懐より外にて付の悉く平生体窮此功を用ひずして懐中なくものは二六時中ともに修養をまもるともいかなる益の益あるべからざる益すくなからずきはまりてまとく海ざる事よ誰かしれ理

翁問答上

問曰人の世中にねがひもとむべきものは何事ぞや

○答云心のあんらくを極まりとす

○問曰人の世中にて心のくるしみのきはまりは何事ぞや

○答いはく心の苦痛よりまさるはなし

○問いはく苦をさりて楽をもとむるにはいかん

○答云学問なり

○問云学問をして苦痛をのぞき安楽をうる道理をいへ

○答云元来其苦人の心の本体は安楽なるものなりまよひ疑ひて煩悩より六根まで心のまよひとなれば世俗も初めは苦しみをおぼえずといへども佛なりといふがごとく心の本体は安楽にして苦痛なきものなり苦痛は

凡人の惑(まよひ)もそのごとく偏(へん)か病(やまひ)ありて心ハもとより眼(まなこ)のごとし眼の中の術なれバおけバ自由(じゆう)にして摘(つまみ)出し見る事も分明(ぶんみやう)快活(くわいくわつ)なり塵(ぢん)砂(しや)なども肉(にく)の内(うち)へ入りこんでおけバ自由ならず摘(つま)み出さんとするも悩(なやみ)あるくバ苦痛(くつう)ふかくしかし一旦(いつたん)苦痛(くつう)つよくハありとも塵砂(ぢんしや)を除去(のぞきさる)ときハ元のごとく自由(じゆう)にして又分明(ぶんみやう)快活(くわいくわつ)なりかくのごとく心の本体(ほんたい)も元来(ぐわんらい)安楽なれども惑(まよひ)の塵砂(ぢんしや)にて損(そん)ずるハ苦痛(くつう)ふかくそのしも学問(がくもん)にて惑(まよひ)の塵砂(ぢんしや)をあらひ去(さ)りて本体の安楽ハ[illegible]学問(がくもん)をなして工夫(くふう)学問(がくもん)すれども本(もと)の心ハ安楽(あんらく)にかへるなり

○問云賢人(けんじん)の心(こゝろ)ハまゝ貧賤(ひんせん)勤労(きんろう)を苦(く)とし富貴(ふうき)安佚(あんいつ)を安楽とするも郷(きやう)ハ苦楽(くらく)境界(きやうがい)にはあらで唯(たゞ)心(こゝろ)の安(あん)と苦(く)とはいかん

○答云左様(さやう)の心得(こゝろえ)ぞこそ凡見(ぼんけん)と云(いふ)てあさましき迷なり凡夫(ぼんぶ)ハ只利欲(りよく)ふかきまよひなりく宴へざる事見えて見えけれどもそれを以(もつ)て定(さだ)む心得(こゝろえ)なりそれ是(これ)の法(ほう)にて想(おもひ)を深(ふか)うする人(じん)称(しやう)滞(とゞこほり)里(り)酒色(しゆしよく)財気(ざいき)の惑(まよひ)にまよふものハ天下(てんか)を憂(うれ)ひ国(くに)をうれひ家をうれひ家を憂(うれひ)し妻子(さいし)あれバ妻子を憂(うれ)へ牛馬(ぎうば)あれバ牛馬を憂金銀(きんぎん)財宝(ざいほう)あれバ金銀財宝を憂ひともなり悪(あく)しと思(おもう)ひ大(たい)類(るい)苦(く)とし苦(く)しまざるものなくあれバ天下(てん)を苦(く)とす

天子ゟ下庶人となりても分限のほどいりいさゝかなき
あるとはいへども其心の苦を差別なしされば古語
にもうきもつらきも我からなれ世の中はよしともあし
貧人はなりしがあり君子は明徳あきらかにして
智者は深く慎んで人欲も動かし自ら禪酒色財氣の惑
なき故に天下をゆづりても與へども受ずしても憂なし
なるがゆゑ国をゆづりても貧しとせず妻子あれども妻妾に
樂しまず牛馬あれども牛馬に滞らず金銀財宝あれど
金銀財宝に溺まずして安く皆楽しからう
故に上天子になりても楽しまず下庶人
人となりても其楽識る処なしされども世間の

凡俗は富貴安佚の為に損なわれ和漢ともに不慮
代の帝王明法くらくされても酒色財氣の欲にひかされ
なし簞瓢陋巷疏食をくらひてものむハ貧
ゑの為に損なれども其楽此内にあし又凡夫の上に
ても禁慾に入ても文女となりても情欲煩悩の苦に至るゝ
なりし農の人耕耘を勤労の為に損なれどもこれん
其の苦楽に大禹の務を慕め務ても勤労の為
損なれども其楽快活ありとも実理と体
察すれば苦楽の心にありて分限なきこと
弁へがたきことなれば

翁問答 4 巻之八

還

[redacted]